

# InstallShield 2018 リリースノート

オリジナル リリース 2018 年 1 月、R2 を含むアップデート リリース 2018 年 9 月

はじめに.....	4
<b>R2 での変更点</b> .....	4
MSIX パッケージのビルド.....	4
<b>SP1 での変更点</b> .....	5
スイート/アドバンスド UI インストールでダウンロード可能なアップデートを構成する.....	5
SHA1 & SHA256 を使用するデュアル署名のサポート.....	6
SP1 で修正されたバグ.....	6
<b>新しい機能</b> .....	7
FlexNet Code Aware を使ったオープン ソース リスク評価の実行.....	7
サポート対象ファイル形式.....	7
FlexNet Code Aware を実行する.....	8
FlexNet Code Aware レポートの読み方.....	9
スイート プロジェクトでパッケージのアンインストール順を指定する.....	12
最小 UI を使ったスイート インストールを実行するメソッド.....	13
条件付きで実行時に機能の表示/非表示を設定する.....	13
再帰的または非再帰的な IIS 登録を行う.....	16
Web アプリケーションのフォーム認証を設定する.....	17
アプリケーション プール エンティティのユーザー プロファイルを読み込むかどうかを制御する新しいオプション.....	18
トランスフォーム プロジェクトにプロセスの強制終了および PowerShell カスタム アクションを追加する.....	19
<b>強化機能</b> .....	20
InstallShield 2018 R2.....	20
定義済みインストール条件の追加.....	20
既存するスイート デバッグ ログの上書き.....	20
サービスおよびその依存サービスを停止する.....	21
[管理者として実行] へのショートカット.....	21
最後のビルド ログ ファイルの場所を保存.....	21
InstallShield 2018 SP1.....	21
スイート読み込み画面のメッセージを構成する.....	22
アップデート ランチャー名のカスタマイズ.....	22

PowerShell カスタム アクションで文字スペースを指定する .....	22
定義済みパブリック フォルダーの指定 .....	23
<b>InstallShield 2018</b> .....	<b>23</b>
QuickPatch プロジェクトを XML 形式で保存する .....	24
スイート プロジェクトにおける製品名プロパティのローカライズ .....	25
製品構成のセットアップ ファイル名にプロパティの値を含める .....	26
概要情報ストリーム コメントおよびパッケージ ファイル名を設定するための新しい MSBuild パラメーター .....	27
概要情報ストリーム コメントを設定する新しいパラメーター .....	27
パッケージ ファイル名を設定する新しいパラメーター .....	28
テキスト ファイルの変更で改行およびタブ文字の指定 .....	29
スイート読み込み画面を削除または非表示にする .....	30
オートメーション インターフェイスにおける新しい ShowSuiteLoadingScreen メソッド .....	31
スイート インストールで常にデバッグ ログを作成する設定 .....	31
オートメーション インターフェイスにおける新しい CreateDebugLog メソッド .....	32
実行時に SSL 証明書の IIS 証明書ファイルを設定する新しい簡易ダイアログ .....	32
XML ファイルで新しい子要素を作成するときに絶対パスまたは相対パスを指定する .....	34
スイート プロジェクトで、ダイアログ ボックス コントロールのデフォルト キーボード フォーカスを設定する .....	36
基本の MSI プロジェクトの PowerShell スクリプト エディター .....	37
InstallShield トランスフォーム ウィザードで既存のトランスフォーム ファイルを開く新しいオプション .....	37
<b>追加された前提条件</b> .....	<b>38</b>
Visual C++ 2017 x86 および x64 前提条件 .....	38
Microsoft SQL Server 2014 SP1 および SP2 前提条件 .....	39
Microsoft .NET Framework 4.7 前提条件 .....	39
<b>重要な情報</b> .....	<b>39</b>
同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアをアップデートする必要があります .....	39
InstallShield の評価 .....	40
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する .....	40
InstallShield の複数エディションをインストールする .....	40
InstallShield の複数バージョンをインストールする .....	41
[リリース] ビューから [.NET/J#] タブの削除 .....	41
DLL プリロード攻撃対策のため、DLL 検索パスから現在のディレクトリを削除 .....	41
<b>プロジェクトのアップグレードに関するアラート</b> .....	<b>42</b>
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報 .....	42
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更 .....	42
文字列のローカライズに関する考慮 .....	43
<b>バグ修正</b> .....	<b>43</b>
InstallShield 2018 R2 .....	43
InstallShield 2018 SP1 .....	45
InstallShield 2018 .....	47
<b>システム要件</b> .....	<b>51</b>
InstallShield を実行するシステムの要件 .....	51
ターゲット システムの要件 .....	53
<b>既知の問題</b> .....	<b>53</b>
<b>法的情報</b> .....	<b>54</b>

# はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer または InstallScript ベースのインストールおよび Microsoft App-V パッケージをオーサリングできる業界標準ツールです。InstallShield 2018 でデイリービルドを簡単にスキャンするだけで、OSS コードに関するリスクを軽減することができます。出荷前に OSS および IP コンプライアンス脆弱性を検出することで、ビルドそのものが将来的な OSS データ違反に対する防衛の最前線となります。

また InstallShield 2018 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能と強化内容が提供されています。



**重要**・InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2018 を使用する前にライセンスサーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。詳細については、「[同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアをアップデートする必要があります](#)」を参照してください。

## R2 での変更点

InstallShield 2018 R2 には、以下のような新しい機能が搭載されています:

- ・ MSIX パッケージのビルド

## MSIX パッケージのビルド

InstallShield 2018 R2 を使って、MSIX パッケージをビルドすることができます。MSIX は、Windows プラットフォームの次世代ソフトウェア デプロイメント モデルで、MSI、AppX、および App-V の長所を単一パッケージに取り込みます。



**メモ**・MSIX パッケージは、Windows 10 RS5 Insider Preview Build (17704 以降) でのみ実行可能です。

Windows アプリの作成機能は、基本の MSI プロジェクトで使用できます。

## SP1 での変更点

InstallShield 2018 SP1 には、次の新しい機能が搭載されています:

- ・ スイート/アドバンスト UI インストールでダウンロード可能なアップデートを構成する
- ・ SHA1 & SHA256 を使用するデュアル署名のサポート
- ・ SP1 で修正されたバグ

# スイート/アドバンスト UI インストールでダウンロード可能なアップデートを構成する

InstallShield 2018 SP1 では今回より、ソフトウェアのダウンロード可能なアップデートを有効化および構成することができます。ユーザーはより新しいバージョンをダウンロードするか、スキップして現在のインストール処理を続行することができます。[リリース] ビューに追加された新しい [アップデート] タブを使って、これらのダウンロード可能なアップデートの設定を構成します。

- ダウンロード可能なアップデートのサポートを有効化する
- ダウンロード可能なアップデートのより新しいバージョンを構成する
- 確認メッセージを構成する
- ダウンロード可能なアップデートの場所への絶対パス URL を指定する

## ダウンロード可能なアップデートのサポートを有効化する

今回より、エンド ユーザーがアドバンスト UI またはスイート/アドバンスト UI セットアップランチャーのダウンロード可能なアップデートのサポートを確認できるようにアップデートを有効化することができます。アップデートを有効化するには、[リリース] ビューの [アップデート] タブにある [アップデートの有効化] オプションを選択します。

## ダウンロード可能なアップデートのより新しいバージョンを構成する

新しいバージョンのダウンロード可能なアップデートは、[リリース] ビューの [アップデート] タブにある “ユーザーに確認する” および “強制インストール” 設定を使って構成できます。

- **ユーザーに確認する** – エンド ユーザーがより新しいバージョンをダウンロードするか、スキップして現在のインストール処理を続行するかどちらかのオプションを選択できるプロンプトを表示します。
- **強制的にインストール** – エンド ユーザーは、スイート パッケージ (使用可能な場合) の新しいバージョンを強制的にダウンロードおよびインストールすることができます。

## 確認メッセージを構成する

インストール中に、エンド ユーザーがより新しいバージョンをダウンロードするか、スキップして現在のインストール処理を続行かを選択できるプロンプトに表示するメッセージをカスタマイズできます。カスタマイズ済みメッセージは、[リリース] ビューの [アップデート] タブにある “確認メッセージ” フィールドに入力します。新しいメッセージを作成するか、文字列一覧からローカライズ済みのメッセージを選択できます。



**メモ** より新しいバージョンをダウンロードするか、スキップして現在のインストール処理を続行するための [はい] または [いいえ] オプションを表示する確認メッセージがエンド ユーザーに表示されません。

## ダウンロード可能なアップデートの場所への絶対パス URL を指定する

以前のリリースでは、アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI セットアップ ランチャーのアップデートをターゲット システムにダウンロード可能にする場合、[リリース] ビューの [Setup.exe] タブにある "アップデート URL" フィールドにその場所への絶対パス URL を入力する必要がありました。

InstallShield 2018 SP1 では、[リリース] ビューの [アップデート] タブにある "アップデート URL" フィールドにその場所への絶対パス URL を入力してください。

## SHA1 & SHA256 を使用するデュアル署名のサポート

以前のリリースでは、署名ダイジェスト ハッシュ アルゴリズムの選択肢は次に限られていました：

- ・ 証明書ハッシュ
- ・ SHA-1
- ・ SHA-256

InstallShield 2018 SP1 では、これらの署名ダイジェスト ハッシュ アルゴリズム以外にも次を選択できます：

- ・ デュアル署名 - (SHA-1 および SHA-256) ダイジェスト

## SP1 で修正されたバグ

InstallShield 2018 SP1 で解決された問題については、「[InstallShield 2018 SP1](#)」を参照してください。

# 新しい機能

InstallShield 2018には、以下のような新しい機能が搭載されています。

- [FlexNet Code Aware](#) を使ったオープン ソース リスク評価の実行
- スイート プロジェクトでパッケージのアンインストール順を指定する
- 最小 UI を使ったスイート インストールを実行するメソッド
- 条件付きで実行時に機能の表示/非表示を設定する
- 再帰的または非再帰的な IIS 登録を行う
- Web アプリケーションのフォーム認証を設定する
- アプリケーション プール エンティティのユーザー プロファイルを読み込むかどうかを制御する新しいオプション
- トランスフォーム プロジェクトにプロセスの強制終了および PowerShell カスタム アクションを追加する

## FlexNet Code Aware を使ったオープン ソース リスク評価の実行

InstallShield には、今回より FlexNet Code Aware との完全な統合が含まれています。FlexNet Code Aware は、製品のセキュリティおよび知的財産 (IP) コンプライアンス リスクを迅速にスキャンする、自動オープン ソース リスク評価およびパッケージ検出ソリューションです。

- [サポート対象ファイル形式](#)
- [FlexNet Code Aware を実行する](#)
- [FlexNet Code Aware レポートの読み方](#)
- [詳細情報](#)

## サポート対象ファイル形式

FlexNet Code Aware では次のファイル分析がサポートされています:

- Java パッケージ
- Node パッケージ
- Nuget パッケージ
- RPM パッケージ
- Ruby パッケージ
- EXE & DLL ファイル

セキュリティ脆弱性は、[National Vulnerability Database \(NVD\)](#) と照合されます。

## FlexNet Code Aware を実行する

FlexNet Code Aware は、InstallShield の一部であり、アクティベーションの際にアクティベーション ID は不要です。

InstallShield 内部から FlexNet Code Aware を実行するには、InstallShield **[プロジェクト]** メニューから **[FlexNet Code Aware を使ってプロジェクトをスキャン]** をクリックするか、標準ツールバーにある **[FlexNet Code Aware]** アイコンをクリックしてください。



図 1: InstallShield ツールバー上の FlexNet Code Aware アイコン



**メモ** この FlexNet Code Aware メニュー オプションは、InstallShield プロジェクトが現在開いていない場合は無効です。

FlexNet Code Aware がプロジェクトのスキャンを完了したとき [Results Summary (結果の概要)] ビューが開いて、キャン済みファイルの数、オープン ソース パッケージ、ならびに検出された脆弱性の数が表示されます。



図 2: FlexNet Code Aware 結果の概要

**[View Report (レポートを表示)]** ボタンをクリックすると、完全なレポートが表示されます。

## FlexNet Code Aware レポートの読み方

[Results Summary (結果の概要)] 画面で [View Report (レポートを表示)] をクリックすると、[Initial Summary (初期の概要)] と [Package Inventory (パッケージ インベントリ)] で構成される完全な FlexNet Code Aware レポートが開きます。

### [Initial Summary (初期の概要)] ビュー

[Initial Summary (初期の概要)] ビューにはスキャン概要ならびに、運用時のリスク、セキュリティ脆弱性の影響、およびライセンスリスクについての評価が表示されます。

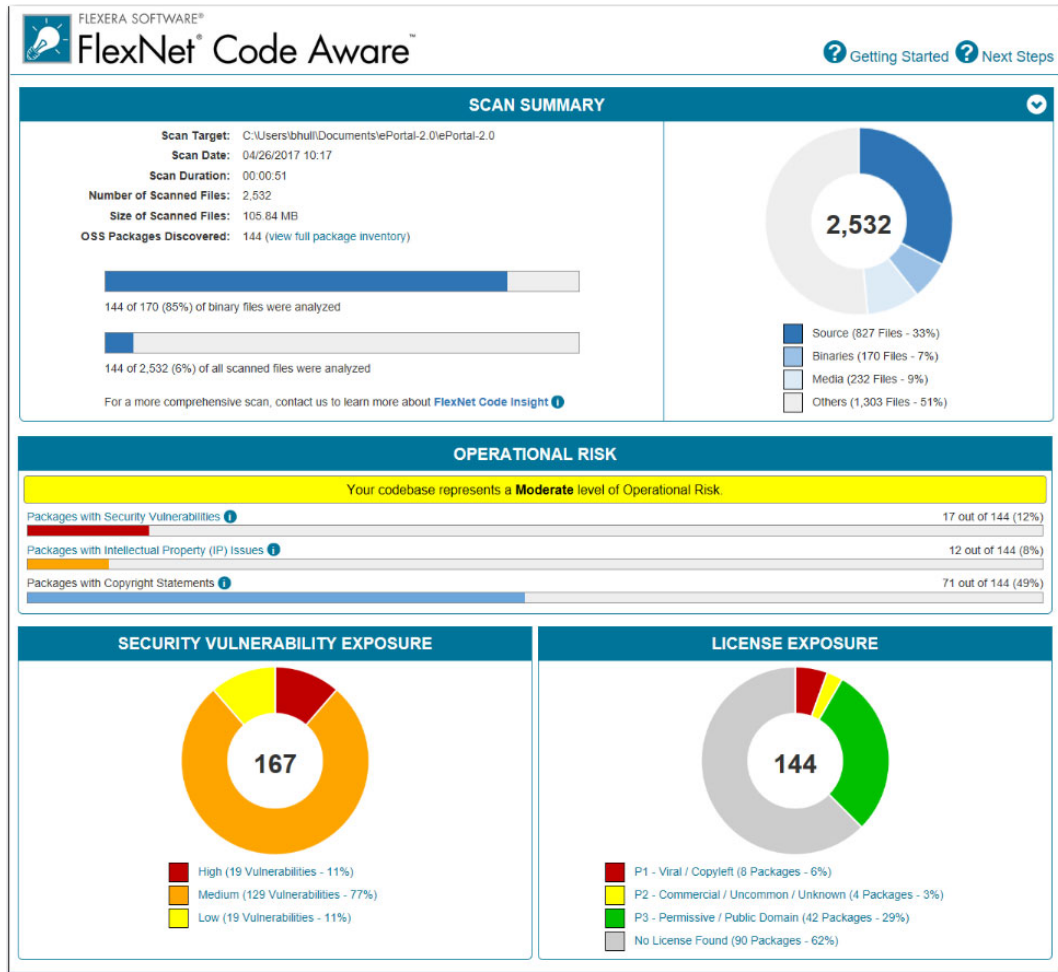


図 3: FlexNet Code Aware [Summary (概要)] ビュー初期画面

FlexNet Code Aware [Initial Summary (初期の概要)] ビューには、次の情報が表示されます：

- **[Scan Summary (スキャン概要)]** – このセクションには、ファイル タイプの内訳、分析済みファイルの割合、および検出数を含む、スキャン済みのコードベースについての詳細が表示されます。
- **[Operational Risk (運用リスク)]** – このセクションには、パッケージと知的財産 (IP) との問題、およびパッケージとセキュリティ脆弱性の組み合わせに基づいた合成リスク評価が表示されます。



- [\[Security Vulnerability Exposure \(セキュリティ脆弱性の影響\)\]](#) および [\[License Exposure \(ライセンスのリスク\)\]](#)—これらのセクションには、識別された問題の種類とカテゴリーの内訳が表示されます。

## [Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビュー

[Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビューは [\[Scan Summary \(スキャン概要\)\]](#) セクションで [\[View full package inventory \(フル パッケージ インベントリの表示\)\]](#) をクリックすると表示され、検出されたオープンソースおよびサードパーティ パッケージおよび関連ライセンス、セキュリティ脆弱性、依存関係、ならびに検出された著作権ステートメントの完全リストを表示します。

The screenshot displays the FlexNet Code Aware interface. At the top, there are search filters for keywords, CVEs, and copyright holders. Below these are legends for Security Vulnerabilities (High Severity: CVSS 7.0 - 10.0, Medium Severity: CVSS 4.0 - 6.9, Low Severity: CVSS 0.0 - 3.9) and Detected Licenses (P1 - Viral / Copyleft, P2 - Commercial / Uncommon / Unknown, P3 - Permissive / Public Domain, No License Found). The main content is a table titled "Browsing 1-10 of 144 Packages".

Package	License	Vendor	Vulnerabilities	# Copyrights
mysql_connector_c 5.1.7	No License Found	Mysql	94 (High), 5 (Medium), 71 (Low)	None Found
struts 1.2.7	Apache-2.0	Apache	7 (High), 2 (Medium), 5 (Low)	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 (High), 1 (Medium), 5 (Low)	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Springsource	6 (High), 1 (Medium), 5 (Low)	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 (High), 1 (Medium), 5 (Low)	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 (High), 1 (Medium), 5 (Low)	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 (High), 1 (Medium), 5 (Low)	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 (High), 1 (Medium), 5 (Low)	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Pivotal_software	6 (High), 1 (Medium), 5 (Low)	None Found
spring_framework 3.0.5.RELEASE	Apache-2.0	Springsource	6 (High), 1 (Medium), 5 (Low)	None Found

図 4: FlexNet Code Aware [Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビュー

[Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビューには、ターゲットのクエリを実行して、一覧を様々なパッケージの種類に絞り込むためのフィルターが用意されています。

追加パッケージの詳細を表示するには、確認したいパッケージの [\[Vulnerabilities \(脆弱性\)\]](#) 列に一覧表示されている 脆弱性カウントをクリックしてください。

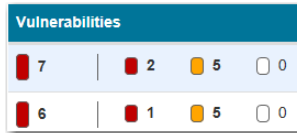


図 5: [Vulnerabilities (脆弱性)] 列

[Vulnerabilities Detail (脆弱性の詳細)] ページが開き ([Package Inventory (パッケージ インベントリ)] ビューの一部と重なる)、選択されたパッケージの詳細情報が表示されます。

**struts 1.2.7**
✕

<b>Name</b>	struts 1.2.7
<b>Version</b>	1.2.7
<b>License</b>	<span style="color: green;">■</span> Apache-2.0
<b>Vulnerabilities</b>	<span style="color: red;">■</span> 7   <span style="color: red;">■</span> 2   <span style="color: orange;">■</span> 5   <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">0</span>
<b>Description</b>	<p>The core of the Struts framework is a flexible control layer based on standard technologies like Java Servlets, JavaBeans, ResourceBundles, and Extensible Markup Language (XML), as well as various Jakarta Commons packages. Struts encourages application architectures based on the Model 2 approach, a variation of the classic Model-View-Controller (MVC) design paradigm. Struts provides its own Controller component and integrates with other technologies to provide the Model and the View. For the Model, Struts can interact with any standard data access technology, including Enterprise Java Beans, JDBC, and Object Relational Bridge. For the View, Struts works well with JavaServer Pages, including JSTL and JSF, as well as Velocity Templates, XSLT, and other presentation systems. The Struts framework provides the invisible underpinnings every professional web application needs to survive. Struts helps you create an extensible development environment for your application, based on published standards and proven design patterns.</p>
<b>Path</b>	C:\Users\bhull\Documents\Portal-2.0\Portal-2.0\extras\struts-1.2.7\contrib\struts-el\lib\struts.jar C:\Users\bhull\Documents\Portal-2.0\Portal-2.0\extras\struts-1.2.7\lib\struts.jar
<b>Evidence Type</b>	pom.xml
<b>Maven GAV</b>	struts:struts:1.2.7
<b>Vendor</b>	Apache
<b>Copyrights</b>	None Found

**Security Vulnerabilities**
▼

**CVE ID:** CVE-2006-1547

**Severity:** ■ High

**CVSS Score:** 7.8

図 6: 脆弱性の詳細

## 詳細情報

FlexNet Code Aware の使用にあたっての詳細は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「FlexNet Code Aware を使ってオープン ソース リスク評価を行う」を参照してください。

# スイート プロジェクトでパッケージのアンインストール順序を指定する



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2018 では今回より、[リリース] ビューの [Setup.exe] タブにある新しい “アンインストール順序” プロパティを使って、スイート プロジェクトに含まれるパッケージのアンインストール順序を指定することができます。

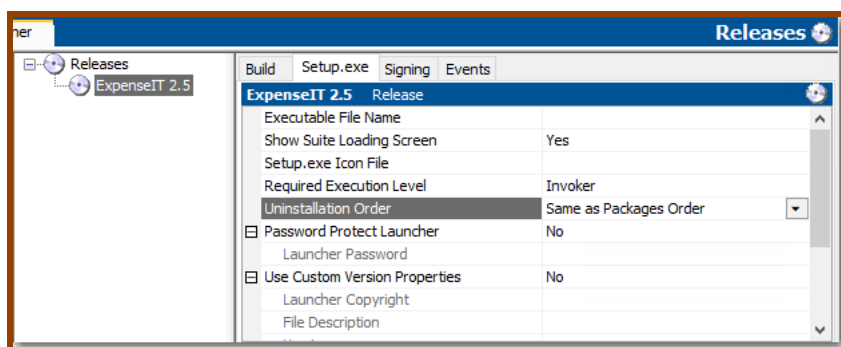


図 7: “アンインストール順序” 設定

この設定を使って、次のオプションから一つを選択し、スイート プロジェクトに含まれるパッケージのアンインストール順序を指定できます。

- ・ **パッケージ順と同じ** – (プロジェクトで定義されている) パッケージのインストール順と同じ順番でパッケージをアンインストールします。
- ・ **パッケージ順と逆** – (プロジェクトで定義されている) パッケージのインストール順と逆の順番でパッケージをアンインストールします。

## オートメーション インターフェイスにおける新しい UninstallOrder メソッド

オートメーション インターフェイスで UninstallOrder メソッドを使って “アンインストール順序” プロパティを設定することができます。次の値のうち 1 つを指定します。

- ・ `euoForward(0)` – (プロジェクトで定義されている) パッケージのインストール順と同じ順番でパッケージをアンインストールします。
- ・ `euoReverse(1)` – (プロジェクトで定義されている) パッケージのインストール順と逆の順番でパッケージをアンインストールします。



メモ・この変更は IOJ-1624801 として記録されています。

# 最小 UI を使ったスイート インストールを実行する メソッド



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2018 では今回より、進行状況パネルを表示するのみの最小 UI モードでスイートインストールを実行する新しいコマンドライン パラメーターを使用できます。

スイート インストールを最小 UI モードで実行するには、コマンドラインで /passive パラメーターを使用します：

```
Setup.exe /passive
```

最小 UI モードを使ってアンインストールするには、次のコマンドを使用します：

```
Setup.exe /passive /remove
```



**メモ** この変更は IOJ-1625935 として記録されています。

# 条件付きで実行時に機能の表示/非表示を設定する



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

以前のリリースでは、アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI インストールで機能の ”表示” プロパティを [はい]または [いいえ] に設定して、インストーラーの **InstallationFeatures** ウィザード ページで表示するかどうかを指定することができました。

InstallShield 2018 では、インストール デザイナーの [機能] ビューで ”表示” プロパティの下にある [条件] オプションを使って、実行時のプロパティに基づいて条件付きで機能を表示または非表示することができます。

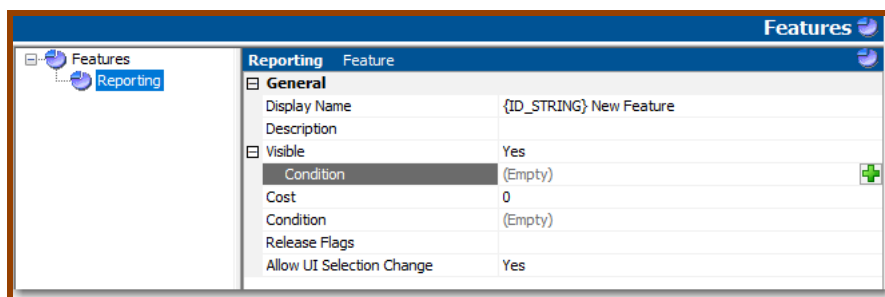


図 8: [機能] ビューにある ”表示” プロパティの新しい [条件] オプション

”条件”設定を使って、InstallationFeatures ウィザード ページで機能をインストール可能としてデフォルトで表示するかどうかを評価するためにアドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI インストールが使用する 1 つ以上の条件を指定できます。

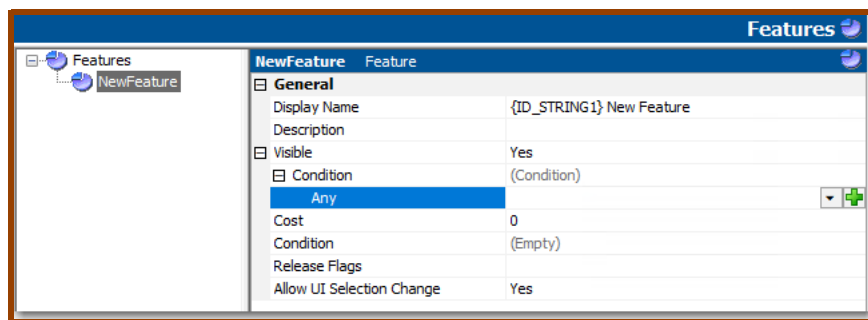
たとえば、Windows の特定バージョンが搭載されたターゲット システム上では特定の機能をデフォルトで表示する場合、その Windows バージョンを指定する条件を作成します。



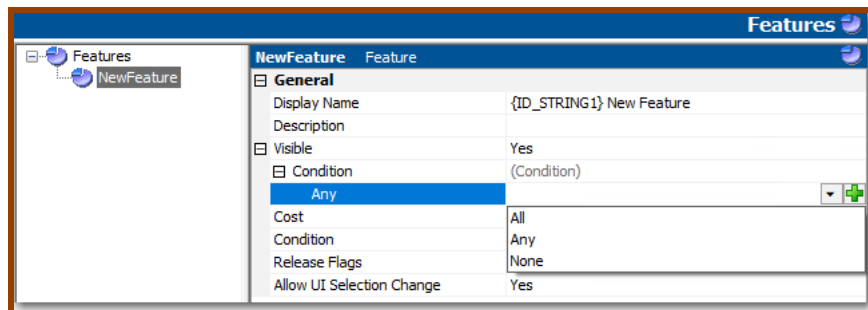
#### タスク

アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI インストールで条件付きで機能を表示する場合、以下の手順に従います:

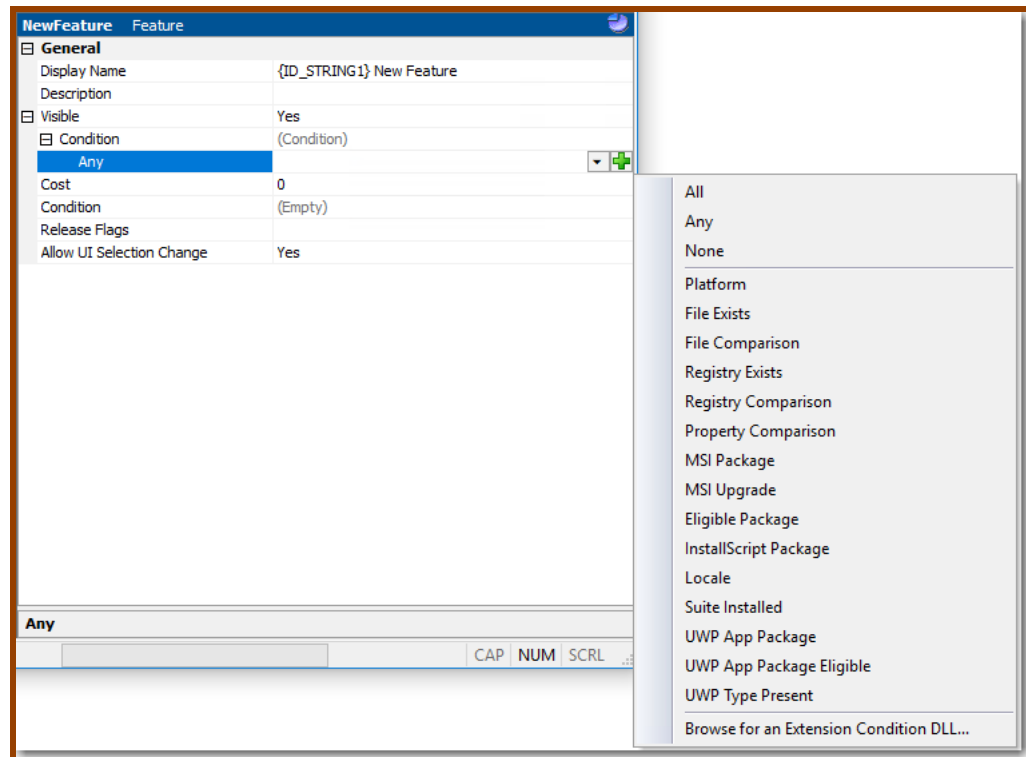
1. **【機能】** ビューで ”表示” プロパティの下にある **【条件】** 行をクリックします。緑色の + 記号 (**【新しい条件】** ボタン) が行の終わりに表示されます。
2. **【新しい条件】** ボタンをクリックします。**【条件】** 行の下に新しい行が追加されます。



3. **【新しい条件】** ボタンの横にある下矢印をクリックして、一覧から適切なオプション (**【All】**、**【Any】**、または **【None】**) を選択します。



次に同じ行で、**[新しい条件]** ボタンをクリックし、適切なオプションを選択してから条件ステートメントのビルドを続行します。



1 つ以上の条件ステートメントが構成されると、“条件” プロパティには **(条件)** と表示されます。何も構成されていない場合、“条件” プロパティには **(空白)** と表示されます。

詳細については、「[アドバンスド UI およびスイート/アドバンスド UI プロジェクトで条件ステートメントをビルドする](#)」を参照してください。

## 条件付きの表示をサポートするための、オートメーション インターフェイスに追加された新しいメソッド

実行時に条件付きで機能の表示を設定するため、次の新しいメソッドがオートメーション インターフェイスに追加されました:

メソッド	構文
<b>AddVisibleCondition</b>	AddVisibleCondition() As ISWiSuiteCondition
<b>DeleteVisibleCondition</b>	DeleteVisibleCondition()
<b>VisibleCondition</b>	読み取り専用オブジェクト プロパティ



**メモ** この変更は IOJ-1625658 として記録されています。

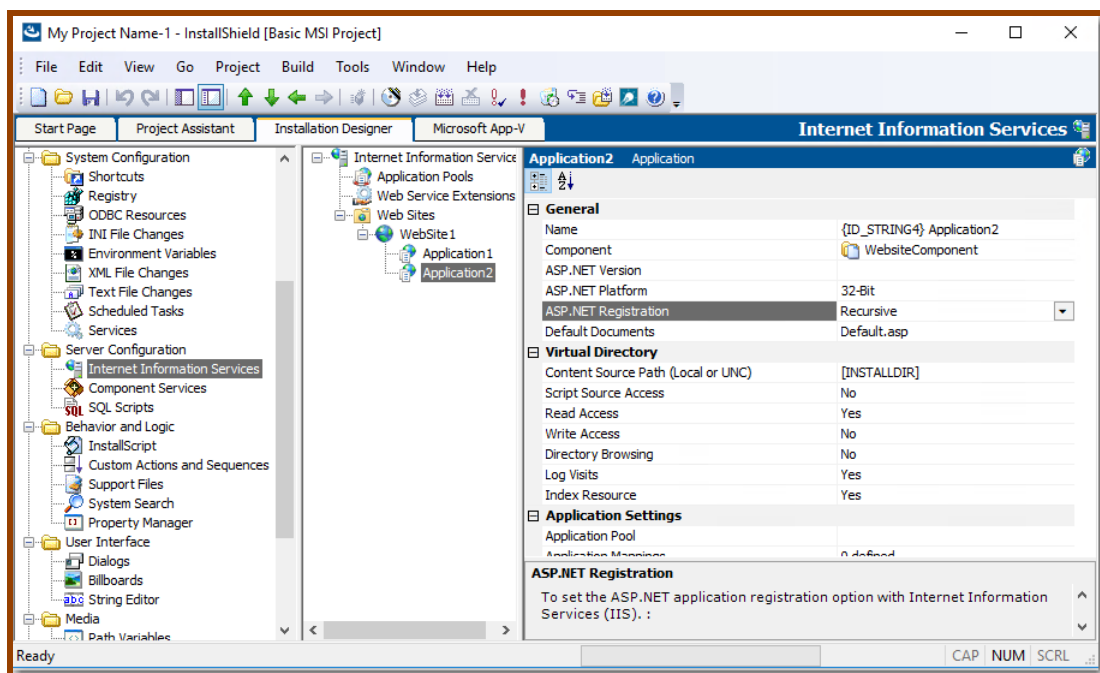
# 再帰的または非再帰的な IIS 登録を行う



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- DIM
- InstallScript
- InstallScript MSI
- マージ モジュール

**[IIS 構成]** ビューの “アプリケーション” 設定に **[ASP.NET 登録]** という名前の新しいオプションが追加され、再帰的または非再帰的な ASP .NET 登録を行うことができます。この機能を使って、同じ Web サイトに ASP.NET アプリケーションおよび ASP.NET コア アプリケーションの両方をインストールすることができます。



**図 9:** 新しい “ASP.NET 登録” 設定

ASP.NET アプリケーション登録オプションを IIS (インターネット インフォメーション サービス) を使って設定するには、“ASP.NET 登録” プロパティを次のオプションの 1 つに設定します：

- **再帰的** – 指定されたアプリケーションおよびすべてのサブアプリケーションのスクリプト マップとアプリケーション プールの割り当てを更新します。
- **非再帰的** – 特定のアプリケーションのスクリプト マップとアプリケーション プールの割り当てを更新します。サブアプリケーションは変更されません。



**メモ** この変更は IOJ-1826269 として記録されています。

# Web アプリケーションのフォーム認証を設定する



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

InstallShield 2018 に、Web アプリケーションでフォーム認証を設定するための新しいオプションが追加されました。この新しいオプション **[フォーム認証]** は、Web サイトの **[IIS 構成]** ビューで **[認証済みアクセス]** セクションの下に表示されます。

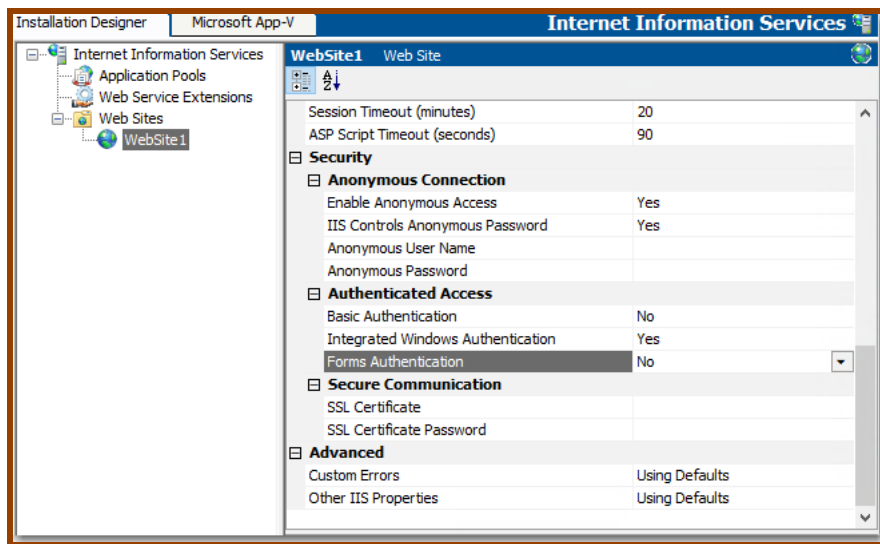


図 10: [IIS 構成] ビューの [フォーム認証] オプション

**[フォーム認証]** オプションを **[はい]** に設定してフォーム認証を有効化します。ASP.NET フォームベースの認証は、多くの要求を受け取るパブリック Web サーバー上にあるサイトまたはアプリケーションに適しています。この認証モードでは、オペレーティング システムが提供している認証方法に頼ることなく、アプリケーション レベルでのクライアント登録および認証を管理することができます。



**重要** フォーム認証は、Web サーバーにユーザー名とパスワードをテキスト形式で送信します。ホームページ以外のアプリケーション内のすべてのページ、およびログオン ページには、Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を使用してください。



**メモ** この変更は IOJ-1625840 として記録されています。



# アプリケーション プール エンティティのユーザー プロファイルを読み込むかどうかを制御する新しいオプション



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI

InstallShield 2018 では、アプリケーション プール エンティティのユーザー プロファイルをロードするかどうかを制御する新しい **"アプリケーション プール"** 設定が **[IIS 構成]** ビューに追加されました。

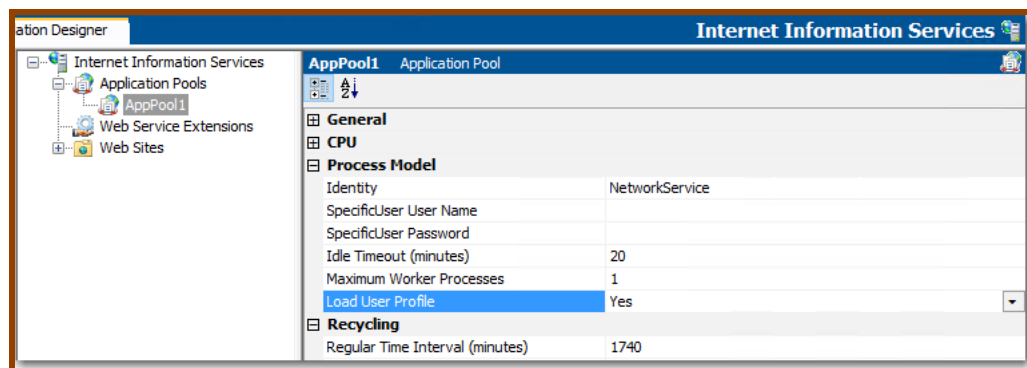


図 11: "ユーザー プロファイルの読み込み" プロパティ

"ユーザー プロファイルの読み込み" プロパティに次のオプションの 1 つを設定します：

- ・ はい – IIS がアプリケーション プールのユーザー プロファイルをロードします。
- ・ いいえ – IIS がアプリケーション プールのユーザー プロファイルをロードしません。これは IIS 6.0 のときと同じ動作です。



**メモ** この変更は IOJ-1659406 として記録されています。

# トランスフォーム プロジェクトにプロセスの強制終了および PowerShell カスタム アクションを追加する



プロジェクト・この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI
- ・ トランスフォーム

以前のリリースでは、トランスフォーム プロジェクトにプロセスの強制終了または PowerShell カスタム アクションを追加することができませんでした。InstallShield 2018 では今回より、[カスタム アクションとシーケンス] ビューでトランスフォーム プロジェクトに [新しいプロセスの強制終了] または [新しい PowerShell] カスタム アクションを追加することができます。

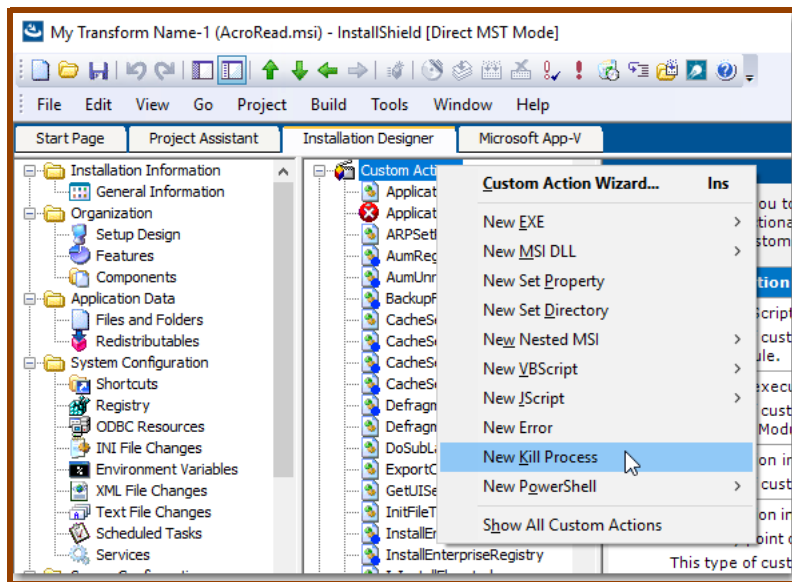


図 12: トランスフォーム プロジェクトにプロセスの強制終了および PowerShell カスタム アクションを追加する



メモ これらの変更は IOJ-1737328 および IOJ-1625759 として記録されています。

# 強化機能

InstallShield 2018 には、以下の強化機能が含まれています:

- [InstallShield 2018 R2](#)
- [InstallShield 2018 SP1](#)
- [InstallShield 2018](#)

## InstallShield 2018 R2

InstallShield 2018 R2 には、以下の強化機能が含まれています:

- [定義済みインストール条件の追加](#)
- [既存するスイート デバッグ ログの上書き](#)
- [サービスおよびその依存サービスを停止する](#)
- [\[管理者として実行\] へのショートカット](#)
- [最後のビルド ログ ファイルの場所を保存](#)

## 定義済みインストール条件の追加



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します:

- *基本の MSI*
- *InstallScript MSI*

InstallShield に新しい定義済みシステム検索が追加されました:

- Microsoft .NET Framework 4.7
- Microsoft .NET Framework 4.7.1
- Microsoft .NET Framework 4.7.2

インストールでこれらの 1 つまたは両方が必要な場合、[システム検索] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、これらのシステム検索をプロジェクトに追加することができます。エンド ユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲット システムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラー メッセージが表示されます。

## 既存するスイート デバッグ ログの上書き



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します:

- *スイート/アドバンスド UI*

InstallShield 2018 R2 では、既存するスイート デバッグ ログに常ログを追加するのではなく、上書きをするオプションが追加されました。

## サービスおよびその依存サービスを停止する



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- スイート/アドバンスド UI
- InstallScript MSI

ServiceStopServiceEx2 関数は szServiceName や bStopDependencies が指定したサービスを停止します。

この関数はサービスおよびその依存サービスを停止します。

## [管理者として実行] へのショートカット



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2018 R2 では、今回より [管理者として実行] へのショートカットを有効化することができます。

## 最後のビルド ログ ファイルの場所を保存



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2018 R2 では、オートメーション インターフェイスに最終ビルド ログ ファイルの場所を保存する新しいメソッドが追加されました。

## InstallShield 2018 SP1

InstallShield 2018 SP1 には、次の強化機能が含まれています：

- [Configure Suite Loading Screen Message](#)
- [アップデート ランチャー名のカスタマイズ](#)

- ・ PowerShell カスタム アクションで文字スペースを指定する
- ・ 定義済みパブリック フォルダーの指定

## スイート読み込み画面のメッセージを構成する



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ スイート/アドバンスト UI

InstallShield 2018 では、アドバンスト UI またはスイート/アドバンスト UI セットアップ ランチャーのスイート読み込み画面にメッセージ追加することができます。

スイート読み込み画面メッセージの長さは 35 文字までです。

## アップデート ランチャー名のカスタマイズ



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript MSI
- ・ QuickPatch

InstallShield では、アップデート ランチャーの名前をカスタマイズするための新しい設定が追加されています。InstallShield はアップデート ランチャーの名前として、デフォルトで Update.exe を使用します。今回より、名前を指定してアップデート ランチャーを作成することができます。

## PowerShell カスタム アクションで文字スペースを指定する



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスト UI
- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ InstallScript オブジェクト
- ・ マージ モジュール
- ・ スイート/アドバンスト UI

InstallShield では、PowerShell カスタム アクションで前後に移動させる場合の文字スペース数を指定するための新しい設定が追加されています。

## 定義済みパブリック フォルダーの指定



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ DIM
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール
- ・ MSI データベース
- ・ MSM データベース
- ・ トランスフォーム

InstallShield では、ユーザーのパブリック フォルダーへの完全パスを保持する新しい定義済みフォルダーが追加されました。

## InstallShield 2018

InstallShield 2018 には、以下の強化機能が含まれています：

- ・ QuickPatch プロジェクトを XML 形式で保存する
- ・ スイート プロジェクトにおける製品名プロパティのローカライズ
- ・ 製品構成のセットアップ ファイル名にプロパティの値を含める
- ・ 概要情報ストリーム コメントおよびパッケージ ファイル名を設定するための新しい MSBuild パラメーター
- ・ テキスト ファイルの変更で改行およびタブ文字の指定
- ・ スイート読み込み画面を削除または非表示にする
- ・ スイート インストールで常にデバッグ ログを作成する設定
- ・ 実行時に SSL 証明書の IIS 証明書ファイルを設定する新しい簡易ダイアログ
- ・ XML ファイルで新しい子要素を作成するときに絶対パスまたは相対パスを指定する
- ・ スイート プロジェクトで、ダイアログ ボックス コントロールのデフォルト キーボード フォーカスを設定する
- ・ 基本の MSI プロジェクトの PowerShell スクリプト エディター
- ・ InstallShield トランスフォーム ウィザードで既存のトランスフォーム ファイルを開く新しいオプション
- ・ 追加された前提条件

## QuickPatch プロジェクトを XML 形式で保存する



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ QuickPatch

InstallShield 2018 では、QuickPatch プロジェクトを XML 形式で保存することができます。また XML 形式で保存されているプロジェクトから QuickPatch プロジェクトを作成することもできます。以前のリリースでは、QuickPatch プロジェクトはバイナリ形式でのみ保存することが可能でした。

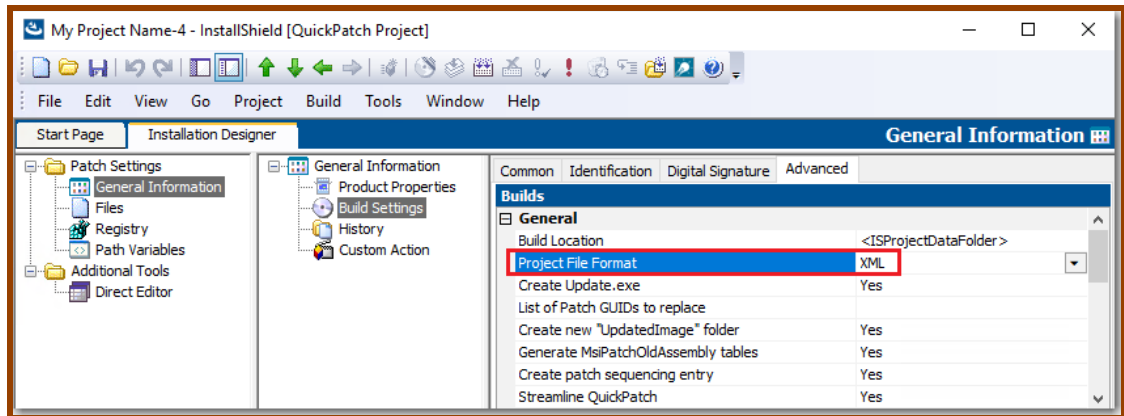


図 13: XML ファイル形式の QuickPatch プロジェクト



**メモ** これらの変更は IOJ-1624951 および IOJ-1591277 として記録されています。

## スイート プロジェクトにおける製品名プロパティのローカライズ



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2018 では、今回より、スイート プロジェクトで **”製品名”** プロパティのローカライズをサポートします。

スイート プロジェクトで **”製品名”** プロパティをローカライズする場合、次の手順に従います。



### タスク

**スイート プロジェクトでプロパティをローカライズするには:**

1. スイート プロジェクトを開いて[ユーザー インターフェイス > 文字列エディター] ビューに移動します。

スイート プロジェクトでサポートされている各言語の翻訳済みテキストを含む新しい文字列を作成します。例、ID\_STRING2

English (United States)	ID_STRING2	Corporation
French (France): français	ID_STRING2	Société
Japanese: 日本語	ID_STRING2	株式会社
Spanish: español	ID_STRING2	Corporación

2. [インストール情報 > 一般情報] ビューを開きます。
3. **”製品名”** フィールドの横にある参照ボタンをクリックして、[文字列の選択] ダイアログ ボックスを開きます。
4. 翻訳済みテキストを含む作成した文字列の名前を選択します。



**メモ** この変更は IOJ-1735025 として記録されています。



## 製品構成のセットアップ ファイル名にプロパティの値を含める



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

InstallShield 2018 では今回より、製品リリース構成のセットアップ名およびパッケージ ファイル名に Property テーブルからのプロパティの値を含めることができます。

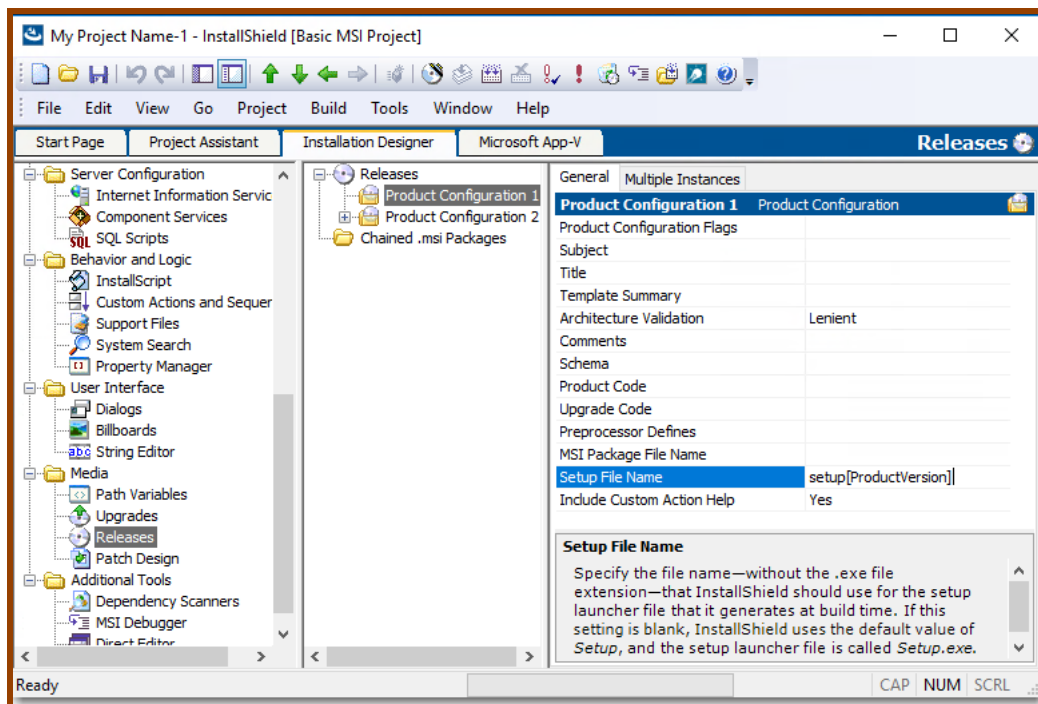


図 14: [リリース] ビューで "セットアップ ファイル名 フィールド" にプロパティを入力する

たとえば、[リリース > 製品構成] ビューの [全般] タブにある "セットアップ ファイル名" または "MSI パッケージ ファイル名" フィールドに次の任意のプロパティを入力することができます：

```
setup[ProductVersion]
setup[CustomVersion]
setup[ProductCode]
setup[ProductCode][ProductVersion]
```

たとえば、"セットアップ ファイル名" フィールドに `setup[ProductVersion]` と入力した場合、セットアップ名が `setup14.10.1234.exe` となります。



**メモ** この変更は IOJ-1764179 として記録されています。

## 概要情報ストリーム コメントおよびパッケージ ファイル名を設定するための新しい MSBuild パラメーター

InstallShield 2018 で今回追加された MSBuild パラメーターを使って、インストーラーにコメントの追加を設定、およびインストーラーのパッケージ ファイル名の設定を行うことができます。

- ・ 概要情報ストリーム コメントを設定する新しいパラメーター
- ・ パッケージ ファイル名を設定する新しいパラメーター

### 概要情報ストリーム コメントを設定する新しいパラメーター



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ 基本の MSI
- ・ InstallScript
- ・ InstallScript MSI
- ・ マージ モジュール

**[一般情報]** ビューの ”概要情報ストリーム コメント” フィールドでインストーラーにコメントを追加することができます。

InstallShield 2018 ではまた、ビルド時にコメントを入力できるオプションも追加されています。MSBuild.exe タスクに SummaryInfoComments という名前の新しいパラメーターが追加されました。これを使って、次の例のようにビルド番号を含めるなど、ビルド時に [概要情報ストリーム コメント] を設定することができます。

MSBuild.exe c:\installers\Setup.sln /Property:SummaryInfoComments="ここにコメントを入力"

SummaryInfoComments プロパティを使って追加されたコメントは、ビルド済みのインストーラーの [プロパティ] ダイアログ ボックスで参照することができます。

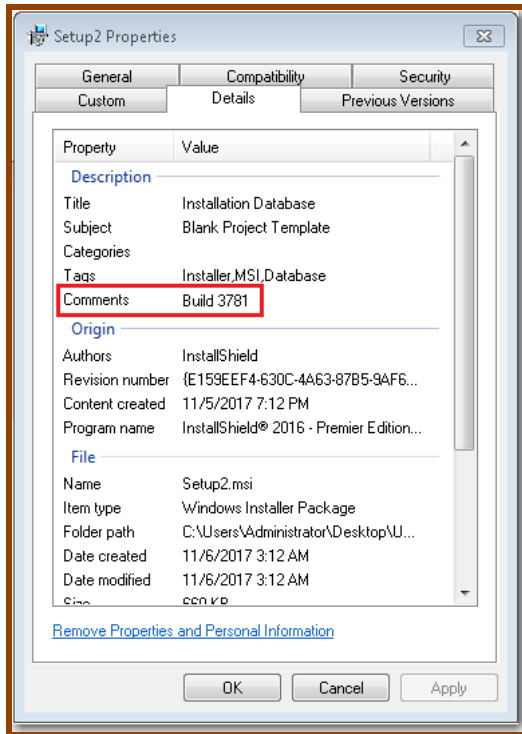


図 15: [プロパティ] ダイアログ ボックスのコメント



メモ この変更は IOJ-1735932 として記録されています。

## パッケージ ファイル名を設定する新しいパラメーター



プロジェクト この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

[リリース] ビューで “製品構成” フィールドの [全般] タブにある “MSI パッケージ ファイル名” フィールドで、インストーラーのパッケージ ファイル名を指定できます。

InstallShield 2018 ではまた、パッケージ ファイル名を設定できるオプションも追加されています。MSBuild.exe タスクに MSIPackageFileName という名前の新しいパラメーターが追加されました。これを使って、次の例のようにビルド時にインストーラーのパッケージ ファイル名を設定することができます。

```
MSBuild.exe c:\installers\%Setup.isproj /Property:MSIPackageFileName="MySetup"
```

MSIPackageFileName パラメーターの値を入力するとき、InstallShield が .msi ファイルに使用する (ピリオドまたはファイル拡張子を含まない) ファイル名を入力する必要があります。



メモ この変更は IOJ-1735520 として記録されています。

## テキスト ファイルの変更で改行およびタブ文字の指定



プロジェクト この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- DIM
- InstallScript MSI
- マージ モジュール
- MSI データベース
- トランスフォーム

ターゲット システム上で実行時に変更するテキスト ファイルの内容について、インストーラーの検索 / 置換処理を構成することができます。そのためには、[システム構成 > テキスト ファイルの変更] ビューを開いて実行時に検索するテキスト ファイルを識別するためのテキスト [変更セット] を追加し、さらに検索するテキスト (検索後の文字列) および置換するテキスト (置換後の文字列) を指定します。

InstallShield 2018 では、テキストの変更セットを追加したとき、改行またはタブを指定するために "置換後の文字列" フィールドにエスケープ シーケンスを入力できるようになりました。

文字	エスケープシーケンス
改行	¥r¥n
タブ	¥t



メモ Windows オペレーティング システムの場合、改行には ¥r¥n の両方を入力する必要があります。

実行時に検索 / 置換が行われた場合、"置換後の文字列" フィールドの ¥r¥n が入力された場所に改行が、¥t が入力された場所にタブが挿入されます。

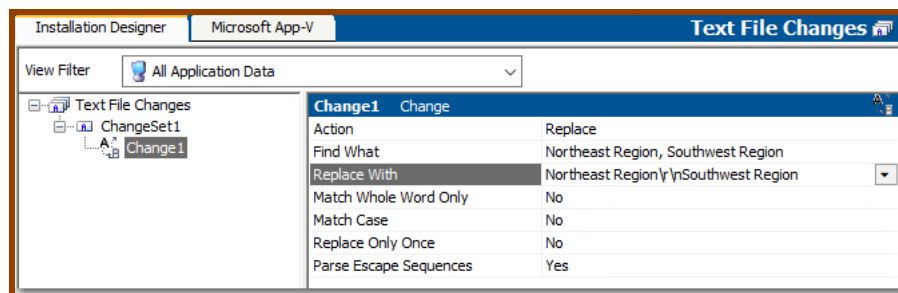


図 16: [テキスト ファイルの変更] ビューの [置換するテキスト] に改行を追加する

これらの文字がエスケープ シーケンスとして認識されるように、[エスケープ シーケンスの解析] オプションを [はい] に設定する必要があります。



メモ この変更は IOJ-1766354 として記録されています。

## スイート読み込み画面を削除または非表示にする



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2018 では今回より、インストール中にスイート読み込み画面を表示するかどうかを制御する機能が追加されました。



図 17: スイート読み込み画面

この画面が表示されるかどうかを制御するため、[リリース] ビューの [Setup.exe] タブに [スイート読み込み画面を表示] という名前の新しいプロパティが追加されました。アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI セットアップランチャーのスイート読み込み画面を非表示にする場合は、このプロパティを [いいえ] に設定します。

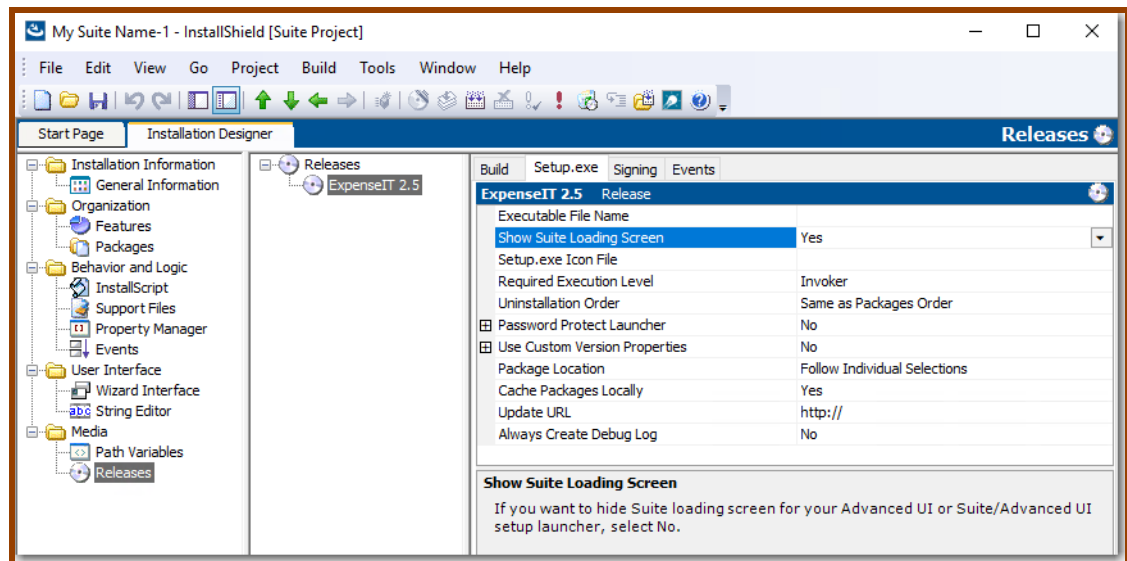


図 18: 新しい "スイート読み込み画面を表示" プロパティ

## オートメーション インターフェイスにおける新しい ShowSuiteLoadingScreen メソッド

オートメーション インターフェイスで ShowSuiteLoadingScreen メソッドを使って、[リリース] ビューの [Setup.exe] タブにある “スイート読み込み画面を表示” 設定を指定することができます。デフォルト値は True です。



メモ: この変更は IOJ-1833774 として記録されています。

## スイート インストールで常にデバッグ ログを作成する設定



プロジェクト: この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します:

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2018 では今回より、コマンドラインで debuglog を渡さずにスイート プロジェクトのログ記録を有効にするオプションを選択できます。

アドバンスド UI およびスイート/アドバンスド UI プロジェクトで [リリース] ビューの [Setup.exe] タブに新しいオプション [常にデバッグ ログを作成する] が追加されました。

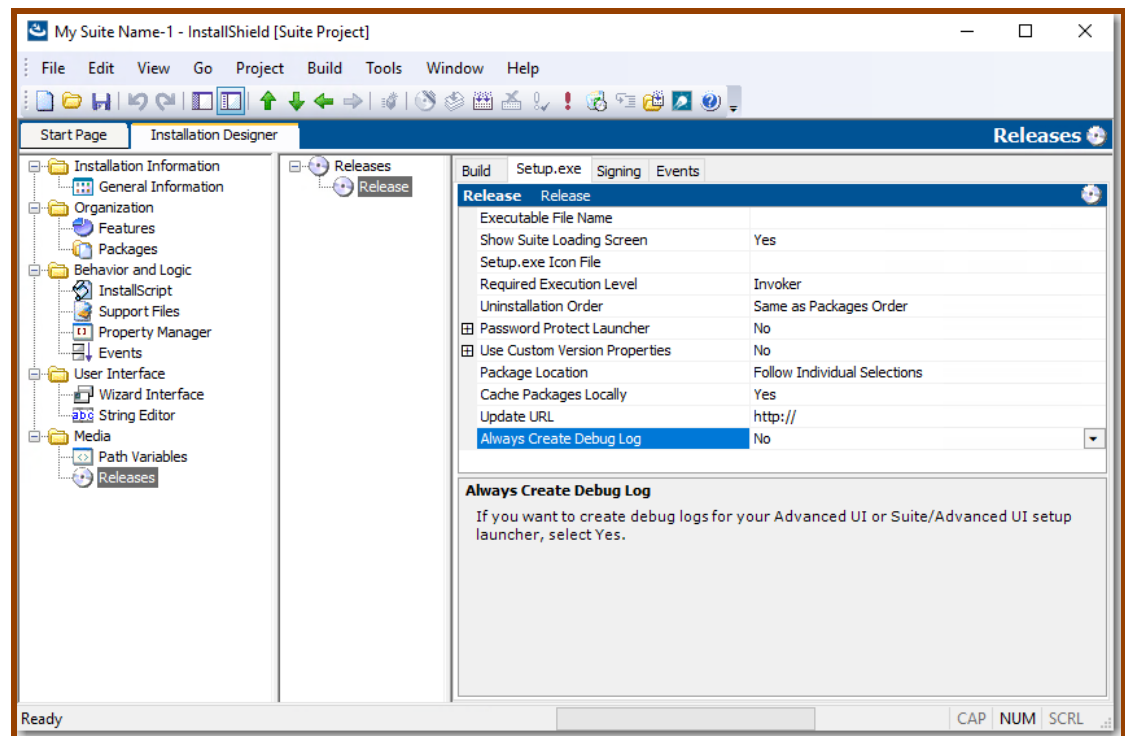


図 19: [リリース] ビューの [Setup.exe] タブにある “常にデバッグ ログを作成する” プロパティ

アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI セットアップ ランチャーのデバッグ ログを常に作成する場合は [常にデバッグ ログを作成する] オプションに [はい] を選択します。

## オートメーション インターフェイスにおける新しい CreateDebugLog メソッド

オートメーション インターフェイスで CreateDebugLog メソッドを使って、[リリース] ビューの [Setup.exe] タブにある "常にデバッグ ログを作成する" 設定を指定することができます。デフォルト値は False です。



メモ: この変更は IOJ-1664877 として記録されています。

## 実行時に SSL 証明書の IIS 証明書ファイルを設定する新しい簡易ダイアログ



プロジェクト: この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します:

- 基本の MSI

InstallShield 2018 には、エンド ユーザーが SSL 証明書に提供する IIS 証明書ファイルを参照し、インストール実行時にパスワードを入力できる、インストーラー用の新しい簡易ダイアログ (IISBrowseSSLCertificate) が含まれています。

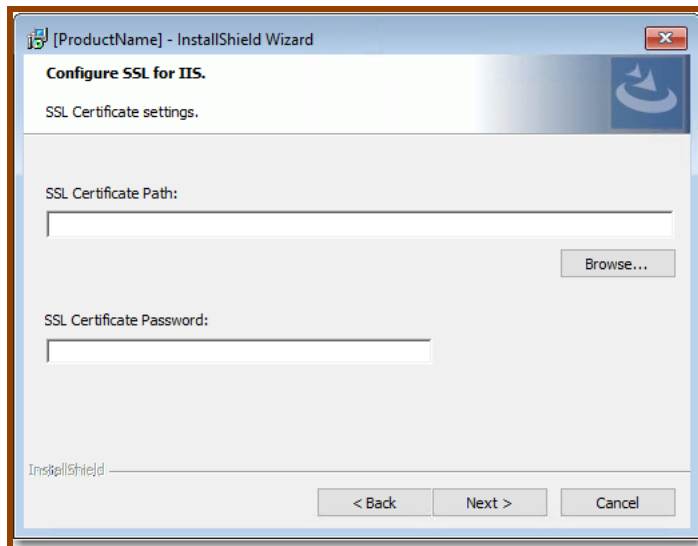


図 20: IIS ダイアログの SSL を構成する

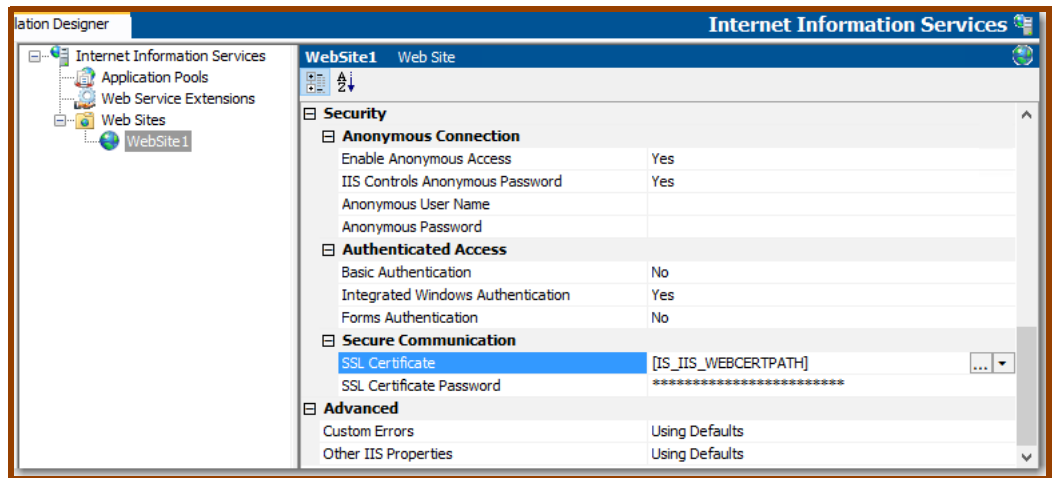
インストーラーに [IIS の SSL を構成する] ダイアログ を追加するには、次の手順に従います：



タスク

インストーラーに [IIS の SSL を構成] ダイアログ を追加するには：

1. [サーバー構成] の下の ビュー リスト にある [IIS 構成] をクリックします。
2. [Web サイト] エクスプローラーを右クリックして、[Web サイトの追加] をクリックします。  
InstallShield が新しい Web サイトを追加します。
3. 新しい Web サイトを選択して [セキュリティ > セキュリティで保護された通信] の下にある "SSL 証明書" および "SSL 証明書パスワード" プロパティに移動します。

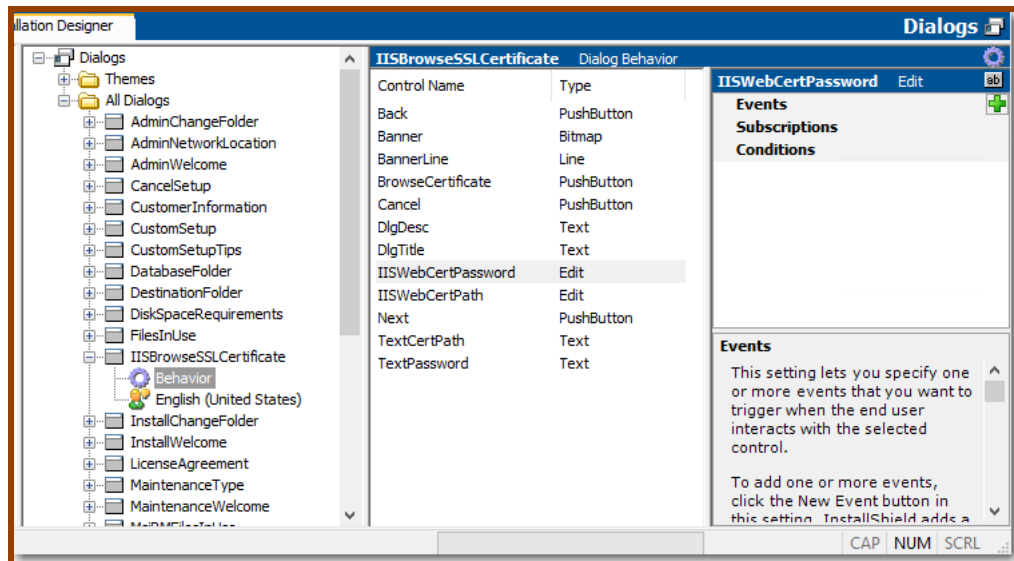


4. "SSL 証明書" および "SSL 証明書パスワード" プロパティを次の値に設定します：

Property	値
SSL 証明書	[IS_IIS_WEBCERTPATH]
SSL 証明書のパスワード	[IS_IIS_WEBCERTPASSWORD]



5. [ユーザー インターフェイス > ダイアログ] ビューを開いて、ダイアログ シーケンスに **IISBrowseSSLCertificate** ダイアログを追加します。



**【編集】** ボックス (IISWebCertPassword と IISWebCertPath) およびプッシュボタン (BrowseCertificate) イベントの **IISBrowseSSLCertificate** ダイアログで、ユーザーが構成した SSL 証明書およびパスワードのプロパティ名がプロパティ名を更新する必要があります。



**メモ** この変更は IOJ-1621833 として記録されています。

## XML ファイルで新しい子要素を作成するときに絶対パスまたは相対パスを指定する



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- DIM
- InstallScript
- InstallScript MSI
- マージ モジュール
- MSI データベース
- トランスフォーム

以前のリリースでは、[システム構成 > XML ファイルの変更] ビューを使って既存する親要素内の子要素と同じ名前を持つ XML ファイルに新しい子要素を追加すると、XML ファイルの変更が失敗しました。

XML ドキュメント内のノードのパスには、絶対パスまたは相対パスの両方が使用できます。絶対パスはルートから始まります。既存の親要素内にある子要素と同じ名前を持つ XML ファイルに新しい子要素を追加するときは、絶対パスを使用する必要があります。

InstallShield 2018 では、子要素を作成するときに絶対パスを使用することを指定するための ”絶対 XPath を使用する” という名前の新しい設定が [XML ファイルの変更] ビューに追加されました。

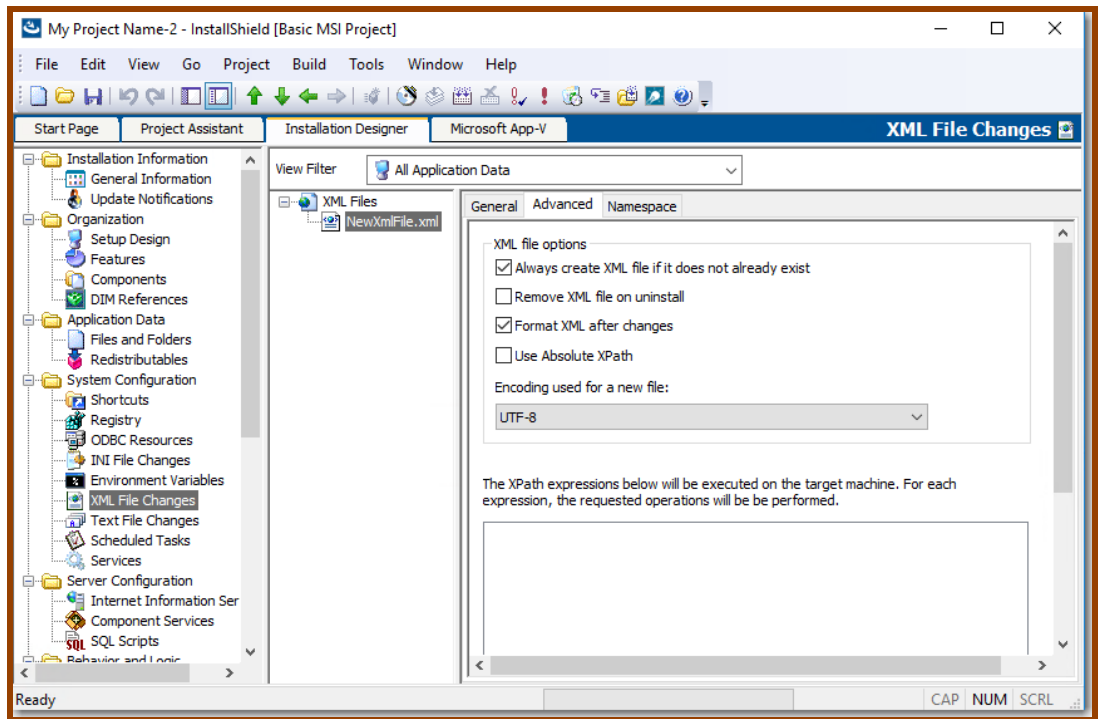


図 21: [XML ファイルの変更] ビューで絶対パス オプションを使用する

”絶対 XPath を使用する” 設定によって異なる子要素作成時の動作:

- ・ **選択** – このオプションが選択されている場合、子要素が追加されるときに絶対 XPath が使用されます。
- ・ **非選択** – このオプションが選択されていない場合、子要素が追加されるときに汎用 XPath が使用されます。デフォルトでは、”絶対 Xpath を使用する” オプションは選択されていません。



メモ この変更は IOJ-1817081 として記録されています。

## スイートプロジェクトで、ダイアログ ボックス コントロールのデフォルト キーボード フォーカスを設定する



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- ・ アドバンスド UI
- ・ スイート/アドバンスド UI

InstallShield 2018 では今回より、スイート プロジェクトでウィザード ページを定義するとき、ウィザード ページ上のどのコントロールにデフォルトのキーボード フォーカスを配置するのかを指定することができます。

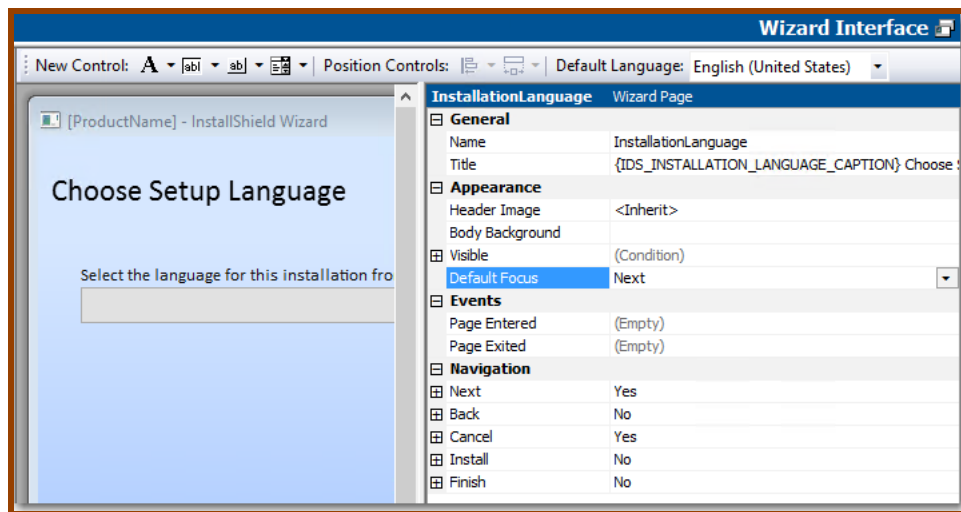


図 22: デフォルト フォーカス プロパティ

[ウィザード インターフェイス] ビューで、[外観] の下に "デフォルト フォーカス" という名前の新しいプロパティが追加されていて、そのウィザード ページで定義されているすべてのコントロールが一覧表示されます。コントロールを選択して、デフォルト キーボード フォーカスをそのコントロールに設定します。



**メモ** この変更は IOJ-1626057 として記録されています。

## 基本の MSI プロジェクトの PowerShell スクリプト エディター



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

InstallShield 2018 では、基本の MSI プロジェクトで [カスタム アクションとシーケンス > カスタム アクション] ビューの新しい [スクリプト] タブで PowerShell スクリプト エディターを使用できます。以前のリリースでは、PowerShell スクリプト エディターはスイート/アドバンスドのみ使用可能でした。

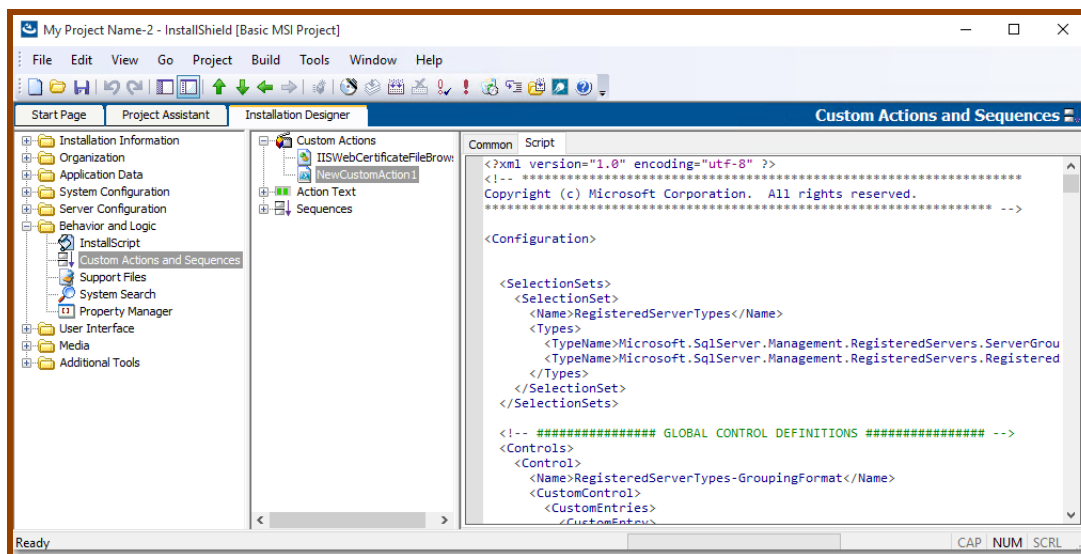


図 23: 基本の MSI プロジェクトにおける [カスタム アクションとシーケンス] ビューのスクリプト エディター



**メモ** この変更は IOJ-1662280 として記録されています。

## InstallShield トランスフォーム ウィザードで既存のトランスフォーム ファイルを開く新しいオプション



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- トランスフォーム

InstallShield 2018 では今回より、InstallShield トランスフォーム ウィザードで、既存のトランスフォーム ファイルを開くことができます。トランスフォーム ウィザードで初めて開いたときと同様に、トランスフォーム ファイルのベースとなる MSI パッケージを選択するためのプロンプトが表示されます。これによって、複数の MSI パッケージに共通の汎用トランスフォーム ファイルを使用することができます。

InstallShield トランスフォーム ウィザードで既存のトランスフォーム ファイルを開くには、Windows エクスプローラーでトランスフォーム ファイルを右クリックしてから、コンテキスト メニューから **[InstallShield トランスフォーム ウィザードで開く]** を選択します。

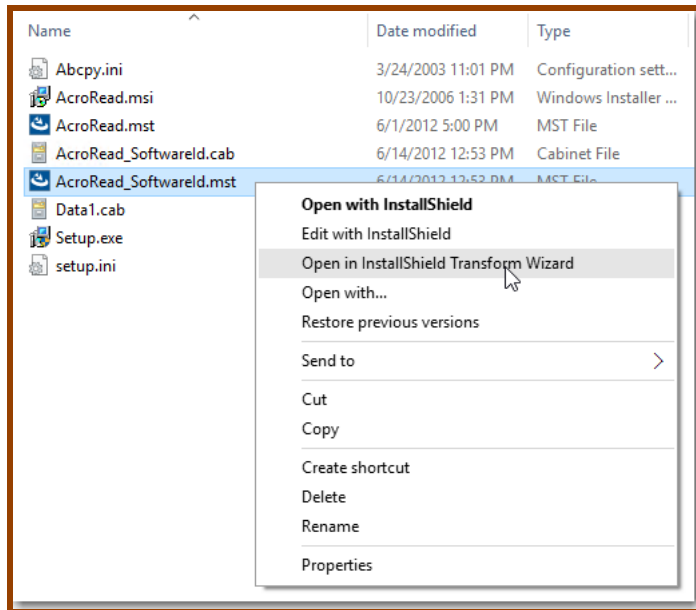


図 24: [InstallShield トランスフォーム ウィザードで開く] オプション



メモ: この変更は IOJ-1725656 として記録されています。

## 追加された前提条件

InstallShield 2018 には、以下の前提条件が追加されています:

- [Visual C++ 2017 x86 および x64 前提条件](#)
- [Microsoft SQL Server 2014 SP1 および SP2 前提条件](#)
- [Microsoft .NET Framework 4.7 前提条件](#)

## Visual C++ 2017 x86 および x64 前提条件

Microsoft Visual Studio 2017 がリリースされたため、InstallShield は今回より、Visual C++ 2017 x86 および x64 の前提条件を含みます。



メモ: この変更は IOJ-1832110 として記録されています。

## Microsoft SQL Server 2014 SP1 および SP2 前提条件

Microsoft SQL Server 2014 には 2 つのサービス パックがリリースされているため、InstallShield は今回より、Microsoft SQL Server 2014 SP1 および SP2 両方の前提条件を含みます。



*メモ* この変更は IOJ-1832297 として記録されています。

## Microsoft .NET Framework 4.7 前提条件

InstallShield は今回より、Microsoft .NET Framework 4.7 の前提条件を含みます。



*メモ* この変更は IOJ-1834933 として記録されています。

# 重要な情報

InstallShield 2018 リリースに関する次の重要な情報に注意してください。

- [InstallShield の評価](#)
- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)
- [\[リリース\] ビューから \[.NET/J#\] タブの削除](#)
- [DLL プリロード攻撃対策のため、DLL 検索パスから現在のディレクトリを削除](#)

## 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアをアップデートする必要があります

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2018 を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2018 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2018 は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェックアウトしません。



*メモ* 新しいバージョンの FlexNet Licensing Server ソフトウェアを使って、InstallShield 2018 および InstallShield の以前のリリース の両方を管理することができます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Flexera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[InstallShield 2016 以降の同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

## InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。

## InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、「[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用](#)」に記述されている通り、フレクセラ・ソフトウェア製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です：

- InstallShield
- 再配布可能ファイル（例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト）
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン（使用可能な場合）
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア（同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合）
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック（使用可能な場合）



**メモ** InstallShield 2018 より、*Collaboration Edition (DIM エディター)* が使用できなくなりました。

## InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2018 の Premier、Professional、または Express Edition の中から、同じシステム上に同時に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2018 DIM Editor を、InstallShield 2018 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

# InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2018 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2018 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

## [リリース] ビューから [.NET/J#] タブの削除



**プロジェクト** この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します：

- 基本の MSI
- InstallScript MSI

インストール デザイナーの [リリース] ビューにあった [.NET/J#] タブは、もともと .NET 1.1/2.0 and J# 再配布可能ファイルをサポートするために提供されていました。これらの古いテクノロジーは、Microsoft によるサポートも停止されました。これに伴い、InstallShield 2018 では [リリース] ビューの [.NET/J#] タブ (並びに関連する [.NET 1.1/2.0 コア言語] と [.NET 1.1/2.0 言語パック] ダイアログ ボックス) が削除されました。

## DLL プリロード攻撃対策のため、DLL 検索パスから現在のディレクトリを削除

DLL プリロード攻撃からインストールを守るため、InstallShield は SetDllDirectory Windows API を空白文字列 ("") で呼び出すことで標準 DLL 検索パスから現在のディレクトリを削除しました。

DLL が明示的に別の DLL にリンクされている場合、または完全修飾パス名を指定せずに LoadLibrary() を使って動的にロードする場合、InstallScript 関数 UseDLL() は現在の作業ディレクトリから依存関係ファイルをロードすることができません。

この問題を回避するには、SetDllDirectoryW (プロトタイプ番号 kernel32.SetDllDirectoryW(wstring);) をプロトタイプ化して SUPPORTDIR で呼び出し、サポート フォルダーを DLL ロード検索パスに含めます。

InstallShield 2018 では、次のように変更されています：

- **Enable** 関数に DLL\_DIRECTORY\_SUPPORTDIR 定数が追加されたため、カスタマーは SUPPORTDIR を DLL ディレクトリとして使用することを明示することができます。
- **Disable** 関数に DLL\_DIRECTORY\_SUPPORTDIR 定数が追加されたため、カスタマーは SUPPORTDIR を DLL ディレクトリとして使用しないことを明示することができます。
- SetDllDirectory (szPathName) ラッパー関数が追加されたため、カスタマーは任意のディレクトリを DLL ディレクトリとして使用することを明示することができます。パラメーターが空白文字列 ("") の場合、呼び出しはデフォルトの DLL 検索順から現在のディレクトリを削除します。





メモ この変更は IOJ-1839017 として記録されています。

# プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2018 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2018 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2018 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

## InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield 2018 を使って以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、プロジェクトを新しいバージョンに変換するかどうかを質問するメッセージ ボックスが表示されます。[変換する]を選択すると、変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2018 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2018 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2018 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

## ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

# 文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

## バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています：

- [InstallShield 2018 R2](#)
- [InstallShield 2018 SP1](#)
- [InstallShield 2018](#)

### InstallShield 2018 R2

InstallShield 2018 R2 では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-1875922	InstallShield 2018 SP1 では、括弧で囲まれている任意の情報をメイン ウィンドウ（たとえば、[編成]、[アプリケーション データ]、[システム構成]）で 2 度目にクリックした時に文字化けが発生する問題。
IOJ-1842422	ISHiddenProperties を使って、スイート エンジンが特定のプロパティの値をデバッグ ログ ファイルに書き込むことを防ぐことが可能。インストール中に再起動が必要な場合、マシンを再開した後に ISHiddenProperties がプロパティ値を隠すのに失敗する問題。
IOJ-1857970	SilentReadData および SilentWriteData の例について、ヘルプ ドキュメントにロジック エラーが含まれています。While ループ内には、ID_PULSE および ID_TONE の 2 つのケース ステートメントがあります。

問題番号	問題の概要
IOJ-1882599	Windows XP 以降 (x86) の Windows Installer 4.5 セットアップ前提条件によって、32 ビット Windows XP SP3 上で再起動の後インストーラーがクラッシュして再開しない問題。
IOJ-1881511	単一 .exe ファイル名の値を設定すると、Disk1 フォルダの setup.exe ファイル名が変更される問題。
IOJ-1877004	64 ビットのアウト プロセス .NET サーバーから COM 抽出を行うと、ビルドおよび RegSpyUi.exe がフリーズする問題。
IOJ-1883924	パッチ デザインが、圧縮済み Setup.exe を圧縮解除しない問題。
IOJ-1836283	32 ビットおよび 64 ビット自己登録ファイルの両方を含む InstallScript プロジェクトが、再起動の後 32 ビット ファイルのみを登録する問題。
IOJ-1872837	* および ? を含む文字列エントリに短いファイル名が生成されない問題。
IOJ-1846436	機能に複数のコンポーネントが含まれている InstallScript プロジェクトにおいて、[ショートカット] ビューで既存コンポーネントをショートカットに選択することが可能。省略記号ボタンをクリックして単一コンポーネントを選択すると、次に同じビューを開いたとき、最初にチェック (選択) したコンポーネントの下にあるすべてのコンポーネントも選択状態となる問題。
IOJ-1875224	Express プロジェクトにおいて、[ダイアログ] ビューで [インストールの準備完了] ダイアログの選択を解除したとき、InstallShield IDE が例外 c0000005 を発生して終了する問題。この問題は新規プロジェクトおよびアップグレードされたプロジェクトの両方で発生しました。
IOJ-1869292	MsiViewModify 関数が InstallScript IntelliSense で認識されない問題。
IOJ-1853479	メジャー アップグレード アイテムの Detect プロパティを変更しても、SecureCustomProperties は自動的に更新されません。
IOJ-1881479	InstallScript MSI インストーラーを、ハード ディスクのルートから実行することができない問題。
IOJ-1880034	新しいパス変数を作成した後、パス変数の種類を変更できない問題。
IOJ-1877875	セットアップ前提条件として含まれた .NET Framework 4.7.1 Web 再配布可能ファイルが、ダウンロードおよびインストールに失敗する問題。
IOJ-1868853	[再配布可能ファイル] ビューがカスタム マージ モジュールを表示する際にフリーズする問題。
IOJ-1887561	InstallScript MSI - USB Thumb Drive からインストールできない問題。
IOJ-1892656	ビルド中、Windows 機能ポップアップに .NET Framework 3.5 が必要な機能として表示される問題。

# InstallShield 2018 SP1

次の問題が、InstallShield 2018 SP1 で解決されました。

問題番号	問題の概要
IOJ-1845413	setup.exe がインストール処理の完了を待機するには、追加コマンドライン オプション (/clone_wait) が必要。
IOJ-1868710	QuickPatch プロジェクトを InstallShield 2016 から InstallShield 2018 にアップグレードすると、InstallShield テーブルのアップグレードの時点でプロジェクトが失敗する問題。
IOJ-1865668	[Windows Installer セットアップのアップグレード] オプションを選択すると、アップグレード コードのプロパティが NULL の場合、InstallShield がクラッシュする問題。
IOJ-1864017	InstallScript カスタム アクションのデバッガーを使うと、InstallShield スクリプト デバッガー ウィンドウが閉じず、開いたままの状態となる問題。
IOJ-1864015	カスタム ダイアログ テーマおよびプロジェクトに関連付けられている IIS Web サイトが含まれている場合、InstallShield 2018 にアップグレードできない問題。
IOJ-1863602	ISWiSuiteReleases オブジェクトのビルド メソッドを呼び出すと、スイートに InstallShield プロジェクトがパッケージとして含まれ、アプリケーションがクラッシュする問題。
IOJ-1862793	製品 & ライセンス センターからダウンロードした InstallShield 2018 スキン カスタマイズ キットが動作しない問題。インストーラーは、InstallShield 2015 がクライアント上にインストールされている場合 2015 バージョンで動作します。
IOJ-1862582	InstallShield 2018 Express でフォント (色、スタイル、またはサイズ) の変更が不可能だった問題。セットアップ ウィンドウのフォント (色、スタイル、またはサイズ) の変更機能が予期しない動作を行った問題。
IOJ-1861264	InstallShield 2016 SP2 および InstallShield 2018 で、プロジェクト固有の IDE がクラッシュする問題。
IOJ-1860906	プロジェクトを開いた状態、または閉じた状態で、[ツール > オプション > 前提条件] タブを選択してから検索する前提条件の一覧に新しいフォルダーを追加すると、フィールドが空白になる問題。
IOJ-1860620	InstallShield プロジェクトを VS ソリューションに追加したとき、MSBuild を使ってソリューションをビルドするとエラーが発生した問題。
IOJ-1860548	コンポーネント キー ファイルが DLL であり、ビルドの .NET スキャンが [依存ファイルおよびプロパティ] に設定されている場合、PowerShell および VBScripts でオートメーション ISWiRelease ビルド メソッドがクラッシュする問題。

問題番号	問題の概要
IOJ-1860335	InstallScript MSI プロジェクトで、MSI プロパティを Msi SetProperty 関数で設定する時に二重引用符 (") を含む値を使用すると、プロパティの値で 1 つの行に二重引用符が 2 つ含まれる問題。
IOJ-1853555	swidtag の署名にストア証明書を使うとビルド エラーが発生した問題。
IOJ-1851448	スイート/アドバンスド UI にダイナミック リンクを含めると、選択されたパッケージのスタティック リンクがプロジェクトに追加されないため、InstallShield でビルド エラーが発生する問題。
IOJ-1850455	キー ファイルをコンポーネントから削除してから、再び同じファイルを別の場所から追加すると、InstallShield がそのファイルをキー ファイルとして表示し続ける問題。プロジェクトを保存してから再び開いたとき、InstallShield はそのファイルがキー ファイルではないと表示します。
IOJ-1845946	4K モニターを使用する場合、基本の MSI プロジェクトに含まれるデフォルトのチェック ボックス コントロールが正しく表示されない問題。
IOJ-1844706	InstallShield を起動するとき、setup.exe が相対パスをサポートしない問題。
IOJ-1844374	InstallScript プロジェクトで機能の [必要な機能] を使用すると、InstallShield が無期限にリーズする問題。
IOJ-1844013	スクリプトが配列値を [データ型未宣言] に割り当てたとき、InstallScript コンパイラーがクラッシュする問題。
IOJ-1843628	圧縮済み InstallScript プロジェクトを実行すると、起動されたインストーラーの名前に関わらず、コピーされたインストーラーの名前が setup.exe となる問題。
IOJ-1843590	PowerShell カスタム アクションを基本の MSI プロジェクトに追加し、アクションをシーケンスしたとき、カスタム アクションにスクリプト ファイルが指定されていない場合でも、InstallShield がエラーを発生せずにプロジェクトのビルドを行った問題。ビルドされたインストーラーは、ランタイムに失敗しました。
IOJ-1842874	セットアップが完了すると Temp フォルダー内のすべてのファイルがクリーンアップされるが、機能前提条件を含む単一の基本の MSI メディアの場合、Temp フォルダーに 2 つの setup.exe が残された問題。
IOJ-1842166	DialogSetInfo() 関数を DLG_INFO_ALTIMAGE パラメーターと共に使用して UI ダイアログ上で別のロゴ イメージを表示するときに発生する問題。InstallShield 2018 にアップグレードしてインストールを再ビルドすると、ロゴ イメージが正しく表示されませんでした。
IOJ-1835755	親にインストール条件が含まれていて、システム上で保留中の再起動プロパティを確認すると、親インストーラーと機能前提条件の両方がインストールに失敗する問題。

問題番号	問題の概要
IOJ-1830023	セットアップが完了すると Temp フォルダ内のすべてのファイルがクリーンアップされるが、単一の基本の MSI メディアの場合、Temp フォルダに 2 つの setup.exe が残された問題。
IOJ-1813407	2 つのマージ モジュール プロジェクトのビルドを同時に実行すると、<project path>¥<project name>¥Build¥Interm¥MergeModules ディレクトリを削除することができない事を通知するエラーが発生する問題。
IOJ-1731438	InstallShield IDE の [レジストリ] ビューで DWORD の値として表示する項目に制限があった問題。2147483647 以上の数値を入力すると、16 進数 0x7FFFFFFF が IDE で 0x7FFFFFFF と表示されました。
IOJ-1665230	レジストリから INSTALDIR を設定すると、レジストリの 64 ビット部分を検索せず、X64 の場所から読み込む必要があった問題。
IOJ-1623965	InstallScript プロジェクトにファイルが含まれていない場合、ISBEW64.exe が Temp フォルダに抽出される問題。これは、製品のインストールまたはアンインストール後も Temp フォルダからクリーンアップされませんでした。
IOJ-1596681	[スクリプト エディター] ペインから機能が削除されたとき、InstallScript プロジェクトのスクリプト エディターには、setup.rul で引き続き削除済みの関数が使用可能であると表示される問題。

## InstallShield 2018

InstallShield 2018 では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-1600400	以前の QuickPatch プロジェクトに基づいて新しい QuickPatch プロジェクトを作成するとき、XML 形式である QuickPatch ISM を選択した場合、次のエラー メッセージが表示される問題：  <ProjectName>.ism は有効な ism ファイルではありません。既存の QuickPatch プロジェクトフィールドに有効な QuickPatch プロジェクト (ism file) を指定してください。
IOJ-1625736	新し言語ウィザードを使って InstallScript プロジェクトに新しい言語を追加した後 InstallShield IDE でビルドを行うと、その言語がメディアに正しく追加されます。ただし、Standalone Build System 上でビルドを行った場合、Standalone Build に新し言語を追加しても言語をメディアに追加することができません。
IOJ-1627091	InstallShield プロジェクトを MSBUILD でビルドしたとき、依存関係ファイルが InstallShield パッケージに含まれません。ただし、同じプロジェクトを Visual Studio インターフェイスを使ってビルドした場合、依存関係ファイルが含まれます。

問題番号	問題の概要
IOJ-1749409	不完全な DLL 上で InstallShield を使った COM 抽出を行ったとき、登録処理中に無限ループが発生する問題。InstallShield はプロセスを停止する代わりに無制限にハングし、一定時間が過ぎた後エラーメッセージを表示します。
IOJ-1773142	InstallShield 2016 前提条件インストーラーで JRE50 および JRE7 をインストールする機能が、誤った名前と説明を表示する問題。JRE50 の機能名は ID_STRING102 で、JRE7 は ID_STRING94 と表示されます。インストールされる機能の名前には、その機能にインストールされるファイルを説明する名前を含みます。
IOJ-1777320	スイート UI で Wizard Lite 形式を指定すると、各ウィザード ページの上部に白い線が表示されました。タイトルおよびヘッダー イメージが削除されている可能性があります。
IOJ-1807823	カスタマーが Import-Certificate cmdlet を使って証明書ストアに証明書をインストールする PowerShell カスタム アクションを使用したとき、InstallShield 外部ではスクリプトが予定通りに動作するが、PowerShell カスタム アクション内部で使用したときに、この cmdlet が動作しない問題。
IOJ-1808966	InstallShield 2016 プロジェクトでは、XCOPY がエラー 0x80070020 をスローする問題。InstallShield 2014 プロジェクトでは、XCOPY が 0 を返す問題。
IOJ-1812514	同時接続ライセンスを使用して FlexNet License Server (11.13.1.5) をインストールする場合、HTTP ポートと License Server Manager ポートで異なるポート番号を指定すると、ポートが保存されずにデフォルト ポート (HTTP は 8090、License Server Manager は 20071-79) に戻る問題。
IOJ-1813258	Microsoft SQL Server 2016 Express 前提条件のダウンロードが失敗する問題。
IOJ-1815650	[SQL スクリプト] ビューの [テキスト置換] を使用するとき、大文字と小文字が異なるだけの同じ値の文字列を置換することができない問題。たとえば、testvalue を検索して TestValue に置換すると失敗します。この場合、スクリプトは testvalue の値を保持します。これは [大文字と小文字の区別を保持する] オプションが選択されていない場合に起こります。[大文字と小文字の区別を保持する] が選択されている場合は、これが予期される動作です。
IOJ-1817063	InstallShield 2016 SP1 setup.exe インストーラーは、パラメーターに LAAW_OPTION_WAIT_INCL_CHILD を使って、元のセットアップがクローン処理の強制終了を待機させます。詳細は、次の記事を参照してください:  <a href="#">InstallShield 2016 SP1 を使用する場合の LaunchAppAndWait nOptions パラメーター</a>
IOJ-1817718	ダイレクト エディターは、RegLocator テーブルで赤色の Signature 列を表示します。Signature テーブルではなく RegLocator テーブルを使う 2 番目のシステム検索が構成されたとき、RegLocator テーブルの <b>Signature</b> 列が赤色になります。



問題番号	問題の概要
IOJ-1822716	[プロジェクト アシスタント] ビューから新しいショートカットが作成されたとき、InstallShield は新しく作成されたショートカットのショート ファイル名を自動的に生成します。新しく生成されたショートカットの名前が [プロジェクト アシスタント] ビューから変更された場合、名前が変更されたショートカットにショート ファイル名は生成されません。
IOJ-1823277	コマンドライン プロンプトを使って基本の MSI セットアップ起動プログラムを呼び出すときに、コマンド全体が 752 文字を超えるパラメーターを含めると「セットアップ起動プログラムが停止しました」エラーが発生しました。エラーが表示されても、MSI は起動し、コマンドラインで渡されたプロパティすべてを含みます。
IOJ-1823375	InstallShield の古いバージョンのホットフィックスを適用した後に、コマンドラインで相対パスを使用するとセットアップの起動に失敗する問題。
IOJ-1823621	スケジュール タスクをマージ モジュール プロジェクトに追加して、それを基本の MSI プロジェクトに含めると警告 -6524 が発生しました。
IOJ-1823819	InstallShield 2015 SP1 基本の MSI プロジェクトを Visual Studio 2015 ソリューションで開くと、Visual Studio がハングおよび/またはインターフェイスで問題が発生しました。ソリューション エクスプローラーが応答なしの状態となりました。
IOJ-1824096	InstallShieldPrereqs_SQLServer.exe インストーラーが、SQL 2016 Express 前提条件を SQL 2014 Express の場所に 2014 前提条件と差し替えてインストールする問題。
IOJ-1825341	MSI ファイルを InstallShield プロジェクトに変換すると、.ism ファイルで元の MSI ファイルに設定されていた "常に上書き" ファイル設定を反映しない問題。
IOJ-1826101	スイート プロジェクトが Windows Server 2016 で実行したとき、IIS Windows 機能を有効化しようとするときのエラーが発生しました: ランタイム エラー 0x800f080c
IOJ-1828662	XCopyFile() 関数は、LOCKEDFILE 定数が渡されたときにロックされているファイルをコピーできない問題。「アクセスが拒否されました」メッセージが表示されます。
IOJ-1829226	Ntmarta.dll ファイルが InstallScript 単一 .exe インストーラーと同じフォルダーに配置された場合、セットアップの初期化中に Unicode がクラッシュする問題。
IOJ-1830045	InstallShield 2016 SP2 でアップデートを確認すると、Software Manager がアップデートが使用できない旨のメッセージを表示する代わりに「この製品バージョンはサーバーに登録されていません」というメッセージが表示される問題。
IOJ-1830667	スイート プロジェクトでフッター ブラシの色を変更しても、ダイアログ参照後に InstallShield インターフェイスで表示されるダイアログのフッター色が更新されない問題。ただし、次の場合には正しい色が表示されました: 1) ユーザーがプロジェクトを保存してから InstallShield を閉じた後に、プロジェクトを再び開いたとき。2) ユーザーが IDE で [ウィザード ページ] ダイアログを表示する前にブラシ色を変更したとき。これはインターフェイスの問題で、実行時には正しい色が表示されました。



問題番号	問題の概要
IOJ-1831676	New-SelfSignedCertificate cmdlet を使用してローカル マシンの証明書ストアに証明書を作成する PowerShell カスタム アクションが予定通りに動作しない問題。 InstallShield 外部ではスクリプトが予定通りに動作しますが、スイート PowerShell カスタム アクションで使用した場合に、cmdlet が証明書を作成しません。
IOJ-1833474	システムに既に Microsoft VC++ 2015 Update 3 がインストールされているとき、Microsoft VC++ 2015 Update 3 前提条件を含むスイート インストーラーが Microsoft Server 2008 上でクラッシュする問題。
IOJ-1833599	右から左方向に読まれる言語を含んだ場合に、パッチまたはマイナー アップグレード (setup.exe) を実行すると、バイナリ テーブルデータに基づいてランタイム エラー 2721 が発生する問題。
IOJ-1834589	アドレス <foo> で <dat> を読み込もうとしてビルドの例外 ACCESS VIOLATION (0xc0000005) を伴って InstallShield がクラッシュする問題。
IOJ-1835866	InstallShield ホットフィックスを適用した後、InstallShield MSI インストーラーがすべての言語ファイルをキャッシュしないため、[プログラムの追加と削除] から起動したときにパネルがデフォルト言語で表示される問題。
IOJ-1836734	新しいスタイルの InstallScript ユーザー インターフェイス タイプを使う InstallScript MSI プロジェクトが実行時に失敗する問題。実際の動作は、セットアップ起動プログラムが含まれているかどうかによって多少異なります。どちらの場合もパッケージはインストールされます。
IOJ-1838239	InstallShield 2016 から、ビルド レポートの概要が機能、マージ モジュール、前提条件、ダイナミック リンク、またはファイルのいずれの数も更新しない問題。これらはすべて 0 と表示されます。コンポーネントの数も削除されました。
IOJ-1839017	InstallShield 2015 SP2 / 2016 の変更が UseDLL() 関数の問題を引き起こします。
IOJ-1839820	アップグレードに異なるメディア リリースを使用すると、InstallShield Installation Information フォルダのキャッシュされたパッケージが存在しないため、不足しているファイルの修復で問題が発生します。
IOJ-1842270	SETUPEXEDIR が InstallShield 前提条件に渡されたとき、予期している値に解決されない問題。
IOJ-1842577	InstallShield の以前のバージョンをスイート プロジェクトにアップグレードすると、文字列 IDS_SUITEERROR_ABORTCONDITION から値が削除される問題。
IOJ-1843630	圧縮済みスイートのサイズが1.5GB より大きく、パッケージに Windows 機能が関連付けられている場合、Windows 7 または Windows Server 2008 R2 上でスイート インストールを実行すると失敗する問題。スイートが非圧縮の場合、またはサイズが小さい場合はこの問題は発生しません。
IOJ-1844034	システム コンテキストを使ってスイートを実行すると、MSI パーセル起動結果 (80070003) が発生します。

問題番号	問題の概要
IOJ-1844673	cryptbase.dll ファイルが setup.exe インストーラー ファイルと同じフォルダーに配置された場合、セットアップの初期化中にロードされる問題。
IOJ-1846227	<p>Msvcp140.dll ファイルの代わりに Microsoft Visual C++ 2015 Update 3 再配布可能ファイルの条件としてレジストリ規則の使用を要求すると、不安定な結果となる問題。</p> <p>現在インストールされているバージョンは次のキーに格納されています：</p> <pre>HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\VisualStudio\vs-version\VC\Runtimes{x86 x64 ARM}</pre> <p>たとえば、C++ 2015 Update 3 x86 の格納場所：</p> <pre>HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Microsoft\VisualStudio\14.0\VC\Runtimes\x86\Version=v14.0.24212.00</pre> <p>詳細については、「<a href="#">Redistributing Visual C++ Files (Visual C++ ファイルの再配布)</a>」を参照してください。</p>
IOJ-1849090	パーセルがパッチ (*.msp) であるスイート インストーラーでパッケージのログ記録サポートを有効化した場合に予期する動作が行われず、GUID ID 名問題が発生しました。
IOJ-1854157	[ショートカット] フォルダーの “表示名” 設定に対するインライン ヘルプが、InstallScript MSI プロジェクトで誤って <SHELL_OBJECT_FOLDER> の使用を推奨する記述。

## システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム（ランタイム環境）の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム（オーサリング環境）の要件が説明されています。

## InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	256 MB の RAM (512 MB 推奨)
ハードディスク	750 MB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

項目	説明
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows Vista</li> <li>• Windows Server 2008</li> <li>• Windows 7</li> <li>• Windows Server 2008 R2</li> <li>• Windows 8</li> <li>• Windows Server 2012</li> <li>• Windows 8.1</li> <li>• Windows Server 2012 R2</li> <li>• Windows 10</li> <li>• Windows Server 2016</li> <li>• Windows Server 2019</li> </ul>
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Visual Studio 2008</li> <li>• Visual Studio 2010</li> <li>• Visual Studio 2012</li> <li>• Visual Studio 2013</li> <li>• Visual Studio 2015</li> <li>• Visual Studio 2017</li> </ul> <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Community</li> <li>• Professional</li> <li>• Premium</li> <li>• Ultimate</li> </ul>

# ターゲット システムの要件

スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) 以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイートの場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows XP SP3
- Windows Server 2003 SP2
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

## 既知の問題

既知の問題一覧は、[https://flexeracommunity.force.com/customer/articles/en\\_US/INFO/InstallShield-2018-Known-Issues](https://flexeracommunity.force.com/customer/articles/en_US/INFO/InstallShield-2018-Known-Issues) をご覧ください。

# 法的情報

## 著作権情報

Copyright © 2018 Flexera.All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本技術およびそれに関する情報のすべての複製は、Flexera より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

## 知的財産

Flexera が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.flexera.com/producer/company/about/intellectual-property/> を参照してください。Flexera 製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

## (米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商用用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。